

IBM SPSS Collaboration
and Deployment Services 5
Customization Reference



注： この情報をおよびサポートされている製品を使用する前に、注意事項 p. 99 の一般情報をお読みください。

このエディションは IBM SPSS Collaboration and Deployment Services 5 および新しいエディションで指示がない限りすべての後続リリースと変更に適用されます。

アドビ製品の画面コピーは、Adobe Systems Incorporated の承認を得て掲載しています。

Microsoft 製品の画面コピーは、Microsoft Corporation の承認を得て掲載しています。

ライセンスの対象 - IBM の所有物

© Copyright IBM Corporation 2000, 2012.

米国政府機関によるユーザーの権利の制限 - IBM Corporation との GSA ADP Schedule Contract により、使用、複製または情報の開示が制限されています。

はじめに

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services は企業レベルのアプリケーションであり、予測分析の幅広い使用および展開を可能にします。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services によって、分析資産を安全かつ監査可能な形で集中的に格納でき、予測分析プロセスの管理および制御を行う高度な機能が提供されます。また、分析処理の結果をエンド ユーザーに提供する高度なメカニズムも提供されます。IBM SPSS Collaboration and Deployment Services を使用すると、分析資産の価値を保護し、法令順守を実現、分析の生産性を向上させ管理分析にかかる IT コストを最小化します。

テクニカル サポート

IBM Corp. のユーザー登録を行ったお客様は、IBM Corp. のテクニカル サポートをご利用いただけます。IBM Corp. 製品の使用方法、または対応するハードウェア環境へのインストールについてサポートが必要な場合は、テクニカル サポートにご連絡ください。テクニカル サポートに連絡するには、IBM Corp. ホームページ (<http://www.spss.co.jp>) をご覧になるか、IBM Corp. 社までお問い合わせください。お客様の ID、所属する組織 ID、およびシステムのシリアル番号をお手元にご用意ください。

ご意見をお寄せください

お客様のご意見は貴重な情報です。IBM Corp. 製品に関するご意見、ご感想をお寄せください。E-mail: jpsales@spss.com 郵便: 〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー 10F エス・ピー・エス・エス株式会社。

内容

1	カスタマイズの概要	1
	前提条件	1
2	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のカスタマイズ	3
	ユーザー インターフェイスのカスタマイズ	3
	認証のカスタマイズ	5
3	URL パラメータ	6
	URL 基本パス	6
	クエリー文字列	7
	共通パラメータ	7
	レポート パラメータ	14
	スコアリング パラメータ	18
	カスタム ダイアログ パラメータ	21
	HTML の手法	29
4	IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library	32
	JavaServer ページのアーキテクチャ	33
	サポートされる項目	35
	レポート	35
	ジョブ	36
	スコアリング モデル	36
	カスタム ダイアログ	37
	アプリケーションの構築	38
	実装の詳細	41
	パブリック JavaScript API	42
	runRepositoryItem 関数	43

getBookmarkedValues 関数	43
retrievePromptValues 関数	44
IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library タグ リファレンス	45
credential タグ	45
repositoryItem タグ	48
repositoryItemPrompt タグ	54
report タグ	55
reportPrompt タグ	55
outputLocation タグ	56
sourceLinkPrompt タグ	58
sourceLinkRepositoryItem タグ	61
sourceLinkReport タグ	62
sourceLinkVariable タグ	63
actionHandler タグ	64
actionParameter タグ	65
タグ ライブラリ Bean	66
Credential Bean	66
ReportBean Bean	67
SearchBean Bean	68
PevMetaDataBean Bean	69
ScoringBean Bean	70
JavaServer ページのサンプル	71

5 ポータルの統合 73

インストール	74
構成	75

6 HTML アーカイブ 81

ファイル構造	81
HTMLC ファイルの作成	82
カスタム HTMLC ファイルの例	82

7 カスタマイズの例 83

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library	83
レポート定義	84
BIRT Report Designer for IBM SPSS レポートの実行.	84
ビジュアライゼーション レポートの実行	88
JavaScript API	88
ビジュアライゼーション レポートのインタラクティブ操作.	89
URL フラグメント.	90
タブ拡張フレームワーク.	90

8 カスタム データ サービス ドライバの作成 93

データ サービス API	93
カスタム ドライバの作成.	95
カスタム ドライバの例	95

付録

A 注意事項 99

索引 102

カスタマイズの概要

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal は、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repositoryへのシンクライアント インターフェイスとして機能し、有効な資格情報を持つユーザーがブラウザを使用して、リポジトリ内に保存されているコンテンツを操作できるようにします。ただし、デフォルトの外観および機能は、すべてのユーザーにとって最適化されているわけではありません。たとえば、ブラウザ インターフェイスの外観を会社の基準に合うように変更したい場合があります。また、リポジトリのコンテンツへの独自のインターフェイスを作成することもあります。

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services では、リポジトリに保存されているコンテンツを操作する方法を、次のようにカスタマイズできます。

- イメージやスタイルシートなどのパッケージ コンポーネントを修正して、Deployment Portal の外観を変更します。詳細は、「[IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のカスタマイズ](#)」を参照してください。
- URL (Uniform Resource Locator) パラメータを使用して、リポジトリのコンテンツを直接参照します。詳細は、「[URL パラメータ](#)」を参照してください。
- Java Server Page タグを使用して、リポジトリ内に格納されたレポートやクエリから取得した情報に基づいてカスタム Web ページを作成します。詳細は、「[IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library](#)」を参照してください。
- ポータル ページにレポートなどのリポジトリ コンテンツを埋め込みます。詳細は、「[ポータルの統合](#)」を参照してください。
- Python スクリプトを使用してリポジトリ コンテンツのバッチ処理を実行します。詳細は、の IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services - Essentials for Python のマニュアルを参照してください。

前提条件

カスタム ダイアログを適切に処理するために、次の要件を満たす必要があります。

- IBM® SPSS® Statistics のリモート実行サーバーを IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で設定し、ブラウザベースの IBM® SPSS® Collaboration and Deployment

Services Deployment Manager でカスタム ダイアログ シンタックスを実行するためのデフォルト サーバーとして指定する必要があります。また、システム デフォルトとは異なる特定の SPSS Statistics サーバーを使用するよう、各カスタム ダイアログを構成することもできます。

- ユーザーは、カスタム ダイアログを実行できるカスタムダイアログの実行 アクション権限を割り当てられている必要があります。
- SPSS Statistics 保存ファイル アクセスは、ブラウザベースの Deployment Manager を使用して SPSS Statistics データのドライバとしてインストール、起動、および指定する必要がある SPSS Statistics データ ファイル ドライバ サービスによって有効化されます。ソフトウェアは、IBM Corp. の顧客にダウンロードして使用できます。

重要 :SPSS Statistics データ ファイル ドライバ サービスは、リポジトリホストと同じオペレーティング システム タイプのホストで実行する必要があります。たとえば、Windows サーバーで実行するデータ ファイル ドライバ サービスと連動して Linux サーバーで実行しているリポジトリを使用することはできません。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services システム構成およびアクションの詳細は、管理者マニュアルを参照してください。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のカスタマイズ

リポジトリ パッケージ (peb-webcontent.package) のさまざまなフェイスを変更し、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Package Manager を使用してパッケージを再展開することで、管理者は IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal ユーザー インターフェイスの特定の要素をカスタマイズできます。スタイルシート (.css) について理解したうえで実行することをお勧めします。

さらに、カスタム認証メカニズムを使用するようシステムを設定し、ブラウザを使用してシステムにアクセスする際に資格情報を手動で入力する手間を省くことができます。

ユーザー インターフェイスのカスタマイズ

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal ユーザー インターフェイスをカスタマイズするには

1. リポジトリ インストールのステージング ディレクトリにある peb-webcontent.package ファイルを別のディレクトリにコピーします。後でデフォルトのユーザー インターフェイスに戻せるようにするには、このファイルをバックアップとして使用します。
2. リポジトリ インストールのステージング ディレクトリにある peb-webcontent.package を、WinZip® などのファイル圧縮ユーティリティで開き、内容を一時ディレクトリに抽出します。抽出されたコンテンツには、images ディレクトリと、使用されるグラフィックおよびスタイルシートの多くを含む css ディレクトリが含まれます。
3. 抽出した images ディレクトリにあるグラフィックを、必要に応じて修正または置換します。ページのデザインを変更するには、シンプル テキストエディタを使用して spssStyles.css ファイルの内容を変更します。これらの要素の表示を変更するには、次の点について考慮してください。

- 変更する画像またはスタイルを決定するには、ブラウザで Web ページを読み込み、[ソースの表示] 機能を使用します。HTML ソースは、使用する画像およびスタイルを識別します。
 - 画像は、css ファイルで指定される場合があります。
 - 製品名をバナーに表示しないようにするには、フォントサイズを 0pt に指定します。
 - 画像を表示しないようにするには、透明な画像に置き換えます。
4. 抽出した config ディレクトリにある UIConfig.xml ファイルをテキストエディタで開きます。必要に応じて、ユーザー インターフェイスの特定の要素を非表示にするように設定を変更します。完了したら、ファイルを保存して閉じます。非表示にする一般的な要素は、次のとおりです。
- Footer: 下端にあるフッター バー。「Powered by」ロゴが表示されます。このバーは、デフォルトでは表示されません。表示するには、値を false から true に変更します。
 - FileHeader: ドキュメント表示時に表示される灰色のファイル情報バー。このバーには、ファイル名および最終更新日時が表示されます。非表示にするには、値を true から false に変更します。

```
<component-configuration>
  <component-name>Footer</component-name>
  <component-visible>false</component-visible>
</component-configuration>

<component-configuration>
  <component-name>FileHeader</component-name>
  <component-visible>true</component-visible>
</component-configuration>
```

5. ファイル圧縮ユーティリティを使用して、抽出したすべてのフォルダとカスタマイズ済みファイルを圧縮します。ファイルを peb-webcontent.package として保存します。.zip 拡張子ではなく、.package という拡張子を付けてください。
6. IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Package Manager を使用して、保存したカスタマイズ peb-webcontent.package ファイルをインストールします。手順については、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository のインストールおよび構成マニュアルの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Package Manager マニュアルを参照してください。インストールが完了したら、ログアウトしてユーティリティを閉じます。
7. リポジトリ サーバーを再起動します。
8. 数分間待機して Deployment Portal (<http://<hostname>:<port>/peb>) を開き、変更を確認します。

認証のカスタマイズ

シングル サインオンが設定され、サイトで有効化された場合、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal アクセスする際のセキュリティ資格情報の手動エントリーは必要ではありません。ただし、シングル サインオンが有効化されていない場合、手動によって資格情報をエントリーできないようにカスタマイズすることができます。

アーキテクチャには、**AuthenticationCriteriaInterface** という名前の Java インターフェイスが含まれています。このインターフェイスには、次のメソッドがあります。

```
public String getUsername()  
public String getPassword()  
public String getProvider()
```

認証をカスタマイズするには、まず `com.spss.AuthenticationCriteriaImpl` などのインターフェイスを実装する Java クラスを作成します。クラスは、ユーザー名、パスワード、プロバイダ認証情報を指定する必要があります。これらの値は、以前認証されたイントラネット サイトまたはポータルなど、さまざまなソースで指定することができます。クラスは、アプリケーション サーバーのクラスパスに入力する必要があります。

次に、クラスを使用するようシステムを設定します。ブラウザベースの IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で、次の Deployment Portal 構成設定を変更します。

- 構成済みの認証条件クラス: カスタム クラスの名前を入力します。
- 構成済みの認証条件を使用する: このオプションを選択して、クラスの使用を有効化します。

認証クラスを構成した後、カスタム クラスで指定された資格情報が有効であれば、資格情報を入力することなく、Deployment Portal を使用することができます。また、リポジトリ項目に対する URL リファレンスには資格情報は必要ありません。

URL パラメータ

ダイレクト URL (Uniform Resource Locator) を使用して、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal レポートやその他のリポジトリ オブジェクトにアクセスできます。URL を使用すると、外部の Web サイトやアプリケーションにレポートを埋め込むなどの方法でレポート情報を直接共有できます。このリファレンス ドキュメントでは、さまざまな URL パラメータを一覧で示すと共に、Deployment Portal URL クエリー文字列の作成と使用に関するヒントも示します。不明な点については、テクニカル サポートに問い合わせてください。

このドキュメントで説明した URL パラメータは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager で使用できる URL には関連しません。

URL 基本パス

すべての要求の基本パスは、次のようになります。

```
http://<hostname>:<port>/peb/view/<content repository path>
```

または

```
http://<hostname>:<port>/peb/view?id=<object-id>
```

ここでの意味は次の通りです。

- <hostname> は、リポジトリ サーバーの名前または IP アドレスです。
- <port> はリポジトリに接続するポート番号です。
- <content repository path> は、操作するリポジトリ オブジェクトのリソース パスです。
- <object-id> は、操作するリポジトリ オブジェクトのリソース ID です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq
```

```
http://yourserver:8080/peb/view?id=0a58c3461e885d24000010f4cc607188375
```

クエリー文字列

URL リファレンスの基本パスの後に、処理に関する追加情報を提供するパラメータを指定したクエリー文字列が続きます。クエリー文字列はクエスチョン マークで始まり、アンパサンド (&) で区切られたパラメータ/値のペアが含まれます。リポジトリ項目がリソース識別しによって示される場合、id パラメータのクエリー文字列先頭のクエスチョン マークが表示され、別のパラメータについて反復する必要はありません。

URL には、基本パスのコンテンツ リポジトリ パス、または id パラメータを指定する必要があります。他のパラメータは省略可能です。特に明記しない限り、パラメータおよびそれらの値の大文字および小文字は区別されます。username や password などの一部のパラメータがすべての URL クエリーに仮想的に使用され、クエリーで参照される項目の種類に応じてその他のパラメータが使用されます。カスタム認証メカニズムを使用するようシステムを設定し、クエリー文字列でセキュリティ資格情報パラメータを指定する手間を省くことができます。詳細は、[2 章 p.5 認証のカスタマイズ](#) を参照してください。

& などの予約文字と、# などの除外された US-ASCII 文字は、クエリー文字列にパラメータ値として指定する前に、URL エンコードする必要があります。ただし、予約セット内の文字は、どのコンテキストでも予約されません。一般に、ある文字を US-ASCII のエスケープ エンコードに置き換えると URI のセマンティクスが変化する場合に、その文字が予約されます。したがって、?、=、: などの文字はパラメータ値の中では予約されませんが、& や # は予約されるので、URL エンコードされる必要があります。

たとえば、& という文字は、次のように %26 として URL エンコードする必要があります。つまり、URL は次のようになります。

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=testuser&admin
```

次のように指定します。

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=testuser%26admin
```

次の項では、各パラメータについて説明します。

共通パラメータ

共通パラメータは、すべての URL リファレンスで仮想的に使用、または複数の種類のリポジトリ項目で使用されます。

id パラメータ

id パラメータは、実行対象の項目のリポジトリ識別子を指定します。

シンタックス

```
id=<identifier>
```

<identifier> の値は、リポジトリのオブジェクト ID に対応します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view?id=0a58c3461e885d240000010f4cc607188375
```

version パラメータ

version パラメータは、バージョン マーカーまたはバージョン ラベルを使用して機能するリポジトリ オブジェクトのバージョンを指定します。スペースなどの特殊文字はエスケープする必要があります。このパラメータを省略すると、最新バージョンが表示されます。

シンタックス

```
version=m.<version marker>  
version=l.<label>
```

<version marker> の値は、リポジトリ オブジェクトのバージョンに対応します。または、<label> の値は、リポジトリ オブジェクトのバージョン ラベルを指定します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?version=m.1:2006-12-04%2020:39:17.995
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?version=l.firstVersion
```

username パラメータ

username パラメータには、システムへのログインに使用するユーザー ID を指定します。

シンタックス

```
username=<user_ID>
```

```
username=<user_ID>
```

<user_ID> の値は、リポジトリ サーバーにログインするユーザーの ID です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
```

password パラメータ

password パラメータには、システムへのログインに使用するユーザーパスワードを指定します。

シンタックス

```
password=<password>
```

<password> の値は、リポジトリ サーバーにログインするユーザーのパスワードを指定します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser&password=pass
```

provider パラメータ

provider パラメータは、資格情報を検証するセキュリティ プロバイダを指定します。username パラメータおよび password パラメータが使用されている場合、provider を指定する必要があります。

シンタックス

```
provider=<provider>
```

<provider> の値は、セキュリティ プロバイダを指定します。有効な値は次のとおりです。

- (組み込みプロバイダ) のネイティブ
- Active Directory の AD_<name>/<domain>。<name> はシステム内のセキュリティプロバイダ名に対応しており、<domain> は DNS 名前空間に対応しています。
- ローカル オーバーライドの Active Directory の ADL_<name>/<domain>。<name> はシステム内のセキュリティプロバイダ名に対応しており、<domain> は DNS 名前空間に対応しています。
- iSeries for IBM i
- OpenLDAP の ldap_<name>。<name> はシステム内のセキュリティ プロバイダ名に対応しています。

スペースなどの特殊文字はエスケープする必要があります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq
?username=validUser&password=pass&provider=Native
```

promptstate パラメータ

promptstate パラメータには、クエリー文字列で指定されていない変数に対して、入力を促す実行時プロンプトのダイアログを非表示にするかどうかを指定します。

シンタックス

```
promptstate=<x>
```

<x> の 1 を指定すると、実行時プロンプトの変数が非表示になり、値が指定されていない変数で、入力が要求されるものに対しては、指定したデフォルトの変数値が使用されます。2 を指定すると、値が指定されていない変数に対して、入力を促す実行時プロンプトが表示されます。このパラメータを省略して、プロンプト ダイアログを表示する方法もあります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
&password=pass&provider=Native&fragment=true&outputtype=html
&var_EmployeeID=1&promptstate=1
```

waitstate パラメータ

waitstate パラメータには、レポート実行中に [待ち時間] 画面を非表示にするかどうかを指定します。

シンタックス

```
waitstate=<x>
```

<x> に 1 を指定すると、[待ち時間] 画面が非表示になります。このパラメータを省略すると、[待ち時間] 画面が表示されます。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
&password=pass&provider=Native&fragment=true&outputtype=html
&var_EmployeeID=1&promptstate=1&waitstate=1&fragment=true
```


partId パラメータ

partId パラメータは、参照されるリポジトリ オブジェクトの特定の部分を示します。HTMLC ファイルの場合、このパラメータはアーカイブ内の特定のファイルを示します。IBM® SPSS® Statistics 出力ファイル (.spw) の場合、パラメータはファイルのアウトラインに示されるインデックスに対応します。たとえば、最初の部分を取得するには、partId=0 を指定します。

シンタックス

partId=<reference_id>

<reference_id> の値は、次の値のいずれかとなります。

- HTMLC ファイル内のファイルの相対パスと名前
- .spw ファイル内の必要な出力のインデックス

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/output.htmlc?username=validUser  
&password=pass&provider=Native&partId=img/chart.png
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/output.spw?username=validUser  
&password=pass&provider=Native&partId=1
```

outputtype パラメータ

outputtype パラメータには、結果セットのファイル タイプを指定します。

シンタックス

outputtype=<file_type>

<file_type> の値には、次の表に示す値のいずれかを指定します。

テーブル 3-1
出カタイプ

レポート タイプ	値	結果
IBM® ShowCase®	html	HTML
	pdf	PDF (Portable Document Format)
	wk4	Lotus 1-2-3
	テキスト	テキスト
	csv	カンマ区切り形式
	biff8	Microsoft Excel
	xlsx	Microsoft Excel 2007 XML 形式
	rptdocument	BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポート ドキュメント
BIRT Report Designer for IBM SPSS	HTML	HTML
	Excel 97/2003	Microsoft Excel
	PowerPoint (P)	Microsoft PowerPoint
	Word 文書	Microsoft Word
	PDF	PDF (Portable Document Format)
	PDF - ページ幅に合わせる	ページ幅を拡大／縮小した PDF 形式
	PDF - 改ページ	改ページを使用した PDF 形式
	PDF - ページ全体に合わせる	ページ サイズを拡大／縮小した PDF 形式
	PostScript	PostScript 形式
	PostScript - ページ幅に合わせる	ページ幅を拡大／縮小した PostScript 形式
	PostScript - 改ページ	改ページを使用した PostScript 形式
	PostScript - ページ全体に合わせる	ページ サイズを拡大／縮小した PostScript 形式
	BIRT RPT 文書	BIRT Report Designer for IBM SPSS レポート ドキュメント
	ask	実行時に出力形式の指定を求めるプロンプト

レポート タイプ	値	結果
ビジュアル化	png	PNG (Portable Network Graphics) 形式
	emf	EMF (Enhanced Metafile) 形式
	jpeg	JPEG
	html	HTML。出力先が表である場合にのみ、ビジュアライゼーション レポートで有効な出力形式となります。表を作成しないビジュアライゼーション レポートに HTML 形式を指定すると、出力が PNG 画像に変換されます。
	pdf	PDF
	ask	実行時に出力形式の指定を求めるプロンプト
カスタム ダイアログ	SPW	IBM® SPSS® Statistics Web 出力ビューア
	HTML	HTML

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
&password=pass&provider=Native&fragment=true&outputtype=html
```

format パラメータ

format パラメータには、ファイルの実行ではなく、リポジトリに保存された元のファイルを返すかどうかを指定します。

シンタックス

format=raw

raw の値は元のファイルを返します。たとえば、IBM® ShowCase® Query 定義の場合、format パラメータを使用すると動的クエリーが実行されるのではなく、元の *.dbq ファイルがダウンロードされます。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
&password=pass&provider=Native&format=raw
```

fragment パラメータ

fragment パラメータには、レポート結果と共に IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のユーザー インターフェイス要素（ヘッダー、フッター、コンテンツ リポジトリ ツリーなど）を表示するかどうかを指定します。

シンタックス

```
fragment=true
```

true の値は、Deployment Portal インターフェイスの要素を非表示にします。このパラメータを省略すると、インターフェイスが表示されます。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser  
&password=pass&provider=Native&fragment=true
```

変数のパラメータ

ジョブなど、変数を使用する非レポート リポジトリの場合、変数の値は、URL クエリー文字列で変数名と値を使用して指定することができます。カスタム ダイアログ、ジョブ、スコアリングの場合、パラメータの値に応じて、変数値プロンプトには、すべての変数が表示されるか、1 つも変数が表示されません。

レポート項目の場合、変数名は、var_ 接頭辞の後に続きます。 [詳細は、p. 17 変数のパラメータ](#) を参照してください。

シンタックス

```
<variable>=<値>
```

<variable> の値は、値を指定する対象の変数名に対応します。<value> の値は、指定のレポート変数を満たすために使用するエントリです。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/myJob?username=validUser  
&password=pass&provider=Native&region=1
```

レポート パラメータ

レポート パラメータは IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository 内に格納されたレポートへのリファレンスに使用されます。レポートは ビジュアライゼーション レポート、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートまたは IBM® ShowCase® レポートとなります。

dbcredential_datasourcename パラメータ

dbcredential_datasourcename パラメータには、データ ソースへのログインに使用する資格情報を指定します。データ ソースのユーザー ID が、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のユーザー ID と異なる場合に使用します。

シンタックス

dbcredential_<datasourcename>=<credential id>

<datasourcename> の値は、指定されたデータ ソースの名前です。
<credential id> の値は、データ ソースとの接続に使用される資格情報オブジェクトの識別子です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq  
?dbcredential_yourDS=0a58c346cd5b72010000010f3df6d5e28130
```

dbuser_datasourcename パラメータ

dbuser_datasourcename パラメータには、データ ソースへのログインに使用するユーザー ID を指定します。データ ソースのユーザー ID が、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のユーザー ID と異なる場合に使用されます。

シンタックス

dbuser_<datasourcename>=<user_ID>

<datasourcename> の値は、指定されたデータ ソースの名前です。
<user_ID> の値は、データ ソースへに接続するユーザーの ID です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?dbuser_yourDS=sa
```

dbpwd_datasourcename パラメータ

dbpwd_datasourcename パラメータには、データ ソースへのログインに使用するパスワードを指定します。データ ソースのユーザー ID が、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のユーザー ID と異なる場合に使用します。

シンタックス

`dbpwd_<datasourcename>=<password>`

<datasourcename> の値は、指定されたデータ ソースの名前です。
<password> の値は、データ ソースに接続するユーザーのパスワードです。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq  
?dbuser_yourDB=sa&dbpwd_yourDB=sa
```

注：

`dbcredential_datasourcename` パラメータを指定した場合、
`dbuser_datasourcename` パラメータと `dbpwd_datasourcename` パラメータより先に、このパラメータがデータ ソースへの接続候補として検討されます。

width パラメータ

`width` パラメータは、作成される画像またはグラフの幅を指定します。このパラメータは、ビジュアライゼーション レポートで使用されます。

ビジュアライゼーション レポートで高さと幅を指定する場合、`height` パラメータと `width` パラメータの両方が必要です。両方指定しないと、グラフはデフォルトの高さと幅で作成されます。

シンタックス

`width=<x>`

<x> はピクセル単位の幅の整数値を指定します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser  
&password=pass&provider=Native&fragment=true&outputtype=html  
&var_EmployeeID=1&promptstate=1&waitstate=1&width=500&height=1000
```

height パラメータ

`height` パラメータは、作成される画像またはグラフの高さを指定します。このパラメータは、ビジュアライゼーション レポートで使用されます。

ビジュアライゼーション レポートで高さと幅を指定する場合、`height` パラメータと `width` パラメータの両方が必要です。両方指定しないと、グラフはデフォルトの高さと幅で作成されます。

シンタックス

height=<x>

<x> はピクセル単位の高さの整数値を指定します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
&password=pass&provider=Native&fragment=true&outputtype=html
&var_EmployeeID=1&PROMPTSTATE=1&waitstate=1&width=500&height=1000
```

var_variable パラメータ

var_variable パラメータには、指定したレポート変数に渡す値を設定します。

シンタックス

var_<variable>=<値>

<variable> の値は、値を指定する対象の変数名です。[クエリー] メニューから IBM® ShowCase® Query または IBM® ShowCase® Report Writer で変数名を検索するには、[変数] を選択します。現在のレポートの変数名のリストが表示されます。

<value> の値は、指定のレポート変数を満たすために使用するエントリです。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/sample/employee.dbq?username=validUser
&password=pass&provider=Native&fragment=true&outputtype=html&var_EmployeeID=1
```

メモ

- レポートの場合、URL に変数値を指定すると、その変数の実行時のプロンプトが非表示になります。
- 単一の変数値 (=) を指定するには、シンタックス var_Lastname=Curtis を使用します。
- 複数の変数値 (IN) を指定するには、シンタックス var_Lastname=Curtis&var_Lastname=McLind を使用します。
- 変数値の範囲 (BETWEEN) を指定するには、シンタックス var_Dateship=3-1-2007&var_Dateship=3-31-2007 を使用します。
- 複数の変数用に値を指定するには、シンタックス var_Lastname=Curtis&var_Dateship=3-1-2007&var_Dateship=3-31-2007 を使用します。

スコアリング パラメータ

スコアリング パラメータは、スコアを生成するスコアリング構成を参照する場合に使用されます。

dataset パラメータ

dataset パラメータは、バッチ スコアリングに使用する SQL データ プロバイダ定義の場所を指定します。このパラメータの値は、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository 内の相対パスです。

シンタックス

```
dataset=<dpd_location>  
dataset.<tableID>=<dpd_location>
```

<dpd_location> の値は、データ プロバイダ 定義へのリポジトリ パスです。

データセットに複数のテーブルが含まれている場合は、パラメータにピリオドを追加し、その後目的のテーブルに対応するテーブルの識別子を追加します。IBM® SPSS® Modeler のスコアリング モデルを実行して <tableID> の値を取得します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myPMML.xml?username=validUser  
&password=pass&scoring_configuration=testConfig  
&dataset=/datasets/dataset.sqldpc
```

dataset_label パラメータ

dataset_label パラメータを使用して、適切なバージョンのデータセットを指定できます。指定されたデータセットのバージョンは、スコアリング構成で定義されたデータ プロバイダとの互換性が必要です。指定されていない場合、LATEST バージョンが使用されます。

シンタックス

```
dataset_label=<myLabel>  
dataset_label.<tableID>=<myLabel>
```

<myLabel> は、該当するデータセット バージョンの場所です。

データセットに複数のテーブルが含まれている場合は、パラメータにピリオドを追加し、その後目的のテーブルに対応するテーブルの識別子を追加します。IBM® SPSS® Modeler のスコアリング モデルを実行して <tableID> の値を取得します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myPMML.xml?username=validUser
&password=pass&scoring_configuration=testConfig
&dataset=/datasets/dataset.sqldpd&dataset_label=PRODUCTION
```

dataset_table パラメータ

dataset_table パラメータを使用して、データセット内のテーブルを指定できます。

シンタックス

```
dataset_table=<myTable>
dataset_table.<tableID>=<myTable>
```

<myTable> の値は、該当するデータセット テーブルの名前です。

データセットに複数のテーブルが含まれている場合は、パラメータにピリオドを追加し、その後目的のテーブルに対応するテーブルの識別子を追加します。IBM® SPSS® Modeler のスコアリング モデルを実行して <tableID> の値を取得します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myPMML.xml?username=validUser
&password=pass&scoring_configuration=testConfig&fragment=true&
dataset=/data/mySet&
dataset_label=PRODUCTION&
dataset_rowlimit=2&
dataset_table=myTable&
promptstate=1
```

dataset_rowlimit パラメータ

ユーザーは、バッチ スコアリングのデータセットから処理されたデータの量を制限できます。これにより、実行プロセスが長時間かからないようになります。dataset_rowlimit は、データセットから抽出されるデータの行数を指定します。

シンタックス

```
dataset_rowlimit=<x>
dataset_rowlimit.<tableID>=<x>
```

<x> は、抽出するデータセットの行数を示します。

データセットに複数のテーブルが含まれている場合は、パラメータにピリオドを追加し、その後目的のテーブルに対応するテーブルの識別子を追加します。IBM® SPSS® Modeler のスコアリング モデルを実行して <tableID> の値を取得します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myPMML.xml?username=validUser
&password=pass&scoring_configuration=testConfig
&dataset=/datasets/dataset.sqldpd&dataset_rowlimit=1000
```

scoring_configuration パラメータ

scoring_configuration パラメータは、指定したモデルをスコアリングするスコアリング エンジンで使用するスコアリング構成を指定します。

シンタックス

scoring_configuration=<configName>

<configName> の値は、スコアリングに使用するスコアリング構成の名前です。指定した構成は、スコアリング要求を処理できる必要があります。中断された構成への参照は、スコアを生成できません。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myPMML.xml?username=validUser
&password=pass&scoring_configuration=testConfig
&dataset=/datasets/dataset.sqldpd
```

batch_type パラメータ

batch_type パラメータは、表示するスコアリング入力プロンプトを指定します。パラメータが dataset ファイルを指定する場合、スコアリング インターフェイスは、データセットとラベルの入力プロンプトを生成します。batch_type は指定されず、パラメータ入力が定義されていない場合、スコアリング パラメータに基づいたインターフェイスが使用されます。

シンタックス

batch_type=<inputPrompt>

<inputPrompt> は、入力プロンプトのソースを示します。現在サポートされているソースは dataset だけです。このパラメータを省略すると、ユーザーにパラメータに基づいた入力値が示されます。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myPMML.xml?username=validUser
&password=pass&scoring_configuration=testConfig&batch_type=dataset
```

カスタム ダイアログ パラメータ

カスタム ダイアログ パラメータは、カスタム ダイアログ (.spd) ファイルを参照する場合に使用されます。

注: IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services 環境でこの機能を使用するには、IBM® SPSS® Statistics アダプタが必要です。詳細は、SPSS Statistics インストール マニュアルを参照してください。

dataset.uri パラメータ

カスタム ダイアログが使用するデータセットの URI。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository の DPD および .sav ファイルについて、URI をリポジトリのパスまたはリソース ID として指定することができます。URI がファイル システムのファイルを示す場合、変数メタデータの取得に使用する IBM® SPSS® Statistics Data File Driver からファイルへのパスが有効でなければなりません。シンタックスを実行する SPSS Statistics Server の有効なパスである必要があります。リポジトリ データセット オブジェクトを使用する場合、オブジェクトのバージョンをバージョン マーカーまたはラベルとして URI に追加することができます。

シンタックス

```
dataset.uri=<myURI>
```

<myURI> の値はデータセットの URI を示します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.uri=spsscr:///Datasets/SpecificURI.sav
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.uri=spsscr:///?id=0a30063bc975ede40000011cafb8deda8327.
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.uri=file:///C:/Program%20Files/SPSSInc/Samples/accidents.sav
```

dataset.table パラメータ

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View データソースの場合、カスタム ダイアログが使用するテーブル。名前が指定されていない場合、DPD で使用できるテーブルのリストから選択するよう指示するプロンプトが表示されます。

シンタックス

```
dataset.table=<myTable>
```

<myTable> の値は、使用するテーブルを示します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd  
?dataset.uri=spsscr:///DPDs/myDPD&dataset.table=myTableName
```

dataset.prompt パラメータ

カスタム ダイアログのデータセットを選択するよう指示します。指示しない場合、セッション時一致する検索基準を指定するユーザーが開いた最初のダイアログに選択されたデータセットが、特定のデータセットを使用するよう設定されていない後続のカスタム ダイアログに使用されます。

シンタックス

```
dataset.prompt=<indicator>
```

ここで、<indicator> は true または false のいずれかになります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?dataset.prompt=true
```

dataset.search.criteria パラメータ

実行時、データ セット リストの生成に使用される検索基準。検索文字列全体は 1 行に入力する必要があります。複数の条件を、かっこや and/or ロジックを使用して結合することができます。

検索基準

```
$$repository/title_field_name=<Object name>
```

```
$$search/mimetype=<オブジェクト MIME タイプ>
```

`$$repository/version_created_by_field=<作成者のユーザー スタンプ>`

`$$repository/version_created_date_field=<バージョン作成日>`

`$$repository/description_field_name=<オブジェクトの説明>`

`$$repository/object_last_modified_by=<作成者のユーザー スタンプ>`

シンタックス

`dataset.search.criteria=<myCriteria>`

<myCriteria> の値は、検索式に対応します。

例

```
# locates all DPDs
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.search.criteria='$$search/mimetype%3Dapplication/x-vnd.spss-data-provider'

# locates all SAV files
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.search.criteria='$$search/mimetype%3Dapplication/x-vnd.spss-spss-data%20or%20
$$search/mimetype%3Dapplication/x-vnd.spss-statistics-data'

# locates all files that match the keyword SPECIAL_DATASET
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.search.criteria='$$repository/keyword_field_name%3D%3DSPECIAL_DATASET'
```

variable.display パラメータ

`variable.display` パラメータは、変数名またはラベルを表示するかどうかを指定します。

シンタックス

`variable.display=<タイプ>`

<type> は、変数名を表示する `names` か、変数ラベルを表示する `labels` です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.uri=spsscr:///Datasets/SpecificURI.sav&variable.display=labels
```

variable.sort パラメータ

`variable.sort` パラメータは、変数の並べ替えに使用するソート基準を指定します。

シンタックス

`variable.sort=<myCriteria>`

<myCriteria> の値は、次の値のいずれかとなります。

- データの元の順序以外に追加のソートを行わない none
- 表示されるフィールド名またはラベルをアルファベット順に並べ替える alphanumeric
- フィールド測定レベルで並べ替える measurement

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?dataset.uri=spsscr:///Datasets/SpecificURI.sav&variable.sort=alphanumeric
```

stylesheet.url パラメータ

リポジトリに保存された CSS スタイルシートを使用する場合、スタイル シートの URL。

シンタックス

`stylesheet.url=<myURL>`

<myURL> は、スタイル シートの URI です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?stylesheet.url=/peb/view/EditBox_pes.css&fragment=true
```

stylesheet.name パラメータ

カスタム ダイアログ ファイルに埋め込まれた CSS スタイルシートを使用する場合、スタイル シートの名前。WinZip など、圧縮アーカイブ ソフトウェアを使用して、スタイルシート ファイルをカスタム ダイアログ ファイルに追加することができます。

シンタックス

`stylesheet.name=<myStyles>`

<myStyles> は、スタイル シートの名前を指定します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
```

```
?stylesheet.name=EditBox.css
```

javascript.url パラメータ

リポジトリに保存された JavaScript を使用する場合、スクリプト ファイルのリポジトリ URL。

シンタックス

```
javascript.url=<myURL>
```

<myURL> は、JavaScript ファイルの URI です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd  
?javascript.url=/peb/view/EditBox_pes.js&fragment=true
```

javascript.name パラメータ

カスタム ダイアログ ファイルに埋め込まれた JavaScript シートを使用する場合、スクリプト ファイルの名前。

シンタックス

```
javascript.name=<myFile>
```

<myFile> は、JavaScript ファイルの名前です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?javascript.name=EditBox.js
```

validate.method パラメータ

ページを送信する前に呼び出す指定した JavaScript ファイルからの検証メソッド。送信される形式は、検証メソッドのパラメータのみです。形式入力を評価する場合、メソッドはブール値を返します。すべてが有効な場合、メソッドは true を返し、送信をキャンセルする必要がある場合は false を返します。

シンタックス

```
validate.method=<myMethod>
```

<myMethod> の値は、検証に使用する JavaScript ファイルのメソッド名です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?javascript.name=EditBox.js
&validate.method=myValidate
```

output.format パラメータ

作成する出力の形式。デフォルトの形式は、IBM® SPSS® Statistics Web 出力ビューアの形式 (. spw) です。HTML の作成が適している場合もあります。出力形式では大文字と小文字が区別されます。

outputtype パラメータと同じ情報を指定しますが、カスタム ダイアログにのみ使用されます。

シンタックス

```
output.format=<myFormat>
```

<myFormat> は、出力の形式です。有効な値は次のとおりです。

- SPSS Statistics Web 出力ビューアの SPW
- HTML 出力の HTML

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?output.format=SPW
```

output.filename パラメータ

出力ファイルの名前。指定されていない場合、出力ファイルは、カスタム ダイアログのファイルと同じ名前で生成されますが、. spw 拡張子がありません。

シンタックス

```
output.filename=<myFile>
```

<myFile> は、出力ファイルの名前です。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd
?output.filename=MyOutputName.spw
```

showOutline パラメータ

アウトラインを表示するかどうかを指定します。デフォルトは true です。

シンタックス

```
showOutline=<indicator>
```

ここで、<indicator> は true または false のいずれかになります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?showOutline=true
```

allowPivoting パラメータ

テーブルを使用できるかどうかを指示します。無効の場合、ユーザーはレイヤーを軸の上に置いたり、反転または変更したり、ビューを保存または新しいウィンドウでデータを開くことはできません。デフォルトは **true** です。

シンタックス

```
allowPivoting=<indicator>
```

ここで、<indicator> は true または false のいずれかになります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?allowPivoting=true
```

allowPrinterFriendly パラメータ

読みやすく印刷しやすい書式の表示を特定のテーブルで開くことができるかどうかを指示します。デフォルトは **true** です。

シンタックス

```
allowPrinterFriendly=<indicator>
```

ここで、<indicator> は true または false のいずれかになります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?allowPrinterFriendly=true
```

allowDownload パラメータ

データをローカル データ ファイルにダウンロードできるかどうかを指示します。デフォルトは **true** です。

シンタックス

`allowDownload=<indicator>`

ここで、<indicator> は true または false のいずれかになります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?allowDownload=true
```

showLogs パラメータ

ログ エントリを出力に表示するかどうかを指示します。デフォルトは true です。

シンタックス

`showLogs=<indicator>`

ここで、<indicator> は true または false のいずれかになります。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?showLogs=true
```

statistics.server パラメータ

IBM® SPSS® Statistics サーバーを使用して、カスタム ダイアログのシンタックスを実行します。値は、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services で定義されるサーバーを参照する URI または名前となります。複数のサーバーを使用している場合、この値はサーバー クラスターの URI または名前を指定できます。

シンタックス

`statistics.server=<serverIdentifier>`

<serverIdentifier> の値は、実行に使用するサーバーを指定します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?  
statistics.server=spsscr:///?id=0a30063bc975ede4000011cafb8deda8327
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd  
?statistics.server=localStatisticsServer
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd  
?statistics.server=copServerCluster
```

statistics.server.credential パラメータ

シンタックス実行時、IBM® SPSS® Statistics サーバーへの接続に使用する資格情報を指定します。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services の資格情報を示す URI または名前となります。

シンタックス

```
statistics.server.credential=<myCredential>
```

<myCredential> の値は、実行するための資格情報を示します。

例

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?statistics.server=localStatisticsServer
&statistics.server.credential=spsscr:///id=0a30063bc975ede4000011cafb8deda8327.
```

```
http://yourserver:8080/peb/view/myDialog.spd?statistics.server=localStatisticsServer
&statistics.server.credential=administrator
```

HTML の手法

HTML エディタの使用

多くの HTML エディタでは、URL クエリー文字列を簡単に作成でき、パラメータ間に適切な区切り文字が挿入されます。

HTML フォームを使用した要求の送信

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal 要求は、Web ページに組み込まれる HTML フォームから送信できます。たとえば、フォームを使用して次の操作を実行できます。

- 使用可能なレポートのリストから選択する。
- 出力ファイルのタイプを選択する。
- レポート要求の送信前に、要求する変数を指定する。
- レポートの実行前に、ID およびパスワードを指定する。

次の例は、形式のアクションのカスタム ダイアログ ファイルを示します。

```
<form name='AnalyzeOptions' method='POST' target='iframe_1'
  action='/peb/view/SamplesStatistics/SPD/Simple.spd?fragment=true&promptstate=1&waitstate=1'>
  <input type='hidden' name='username' value='userA'/>
  <input type='hidden' name='password' value='passwordA'/>
  <input type='hidden' name='provider' value='Native'/>
  <input type='hidden' name='dataset.uri' value='spsscr:///SamplesStatistics/SAV/multipleResponseData.sav'/>
  <input type='hidden' name='allowPivoting' value='false'/>
```

```



```

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository を使用して相対パスを含むカスタム Web ページを保存する

リポジトリは、カスタム Web サイト用のファイルを保存するための中心的な場所として使用できます。カスタム Web ページの中で .css スタイルシート、画像、Deployment Portal レポート オブジェクト、JavaScript などのアイテムにリンクするときに、相対パスと絶対パスのどちらも使用できます。

たとえば、リポジトリにはカスタム Web ページ MyWebPage.htm と、画像、スタイルシート、JavaScript ファイルなどのリソースを含むフォルダ MyWebPage を保存できます。MyWebPage.htm には、次のようなリソースへの相対参照を含めることができます。

```


<script language="javascript" src="MyJS.js?fragment=true">
</script>
<LINK REL="StyleSheet" HREF="MyStyles.css?fragment=true"
TYPE="text/css" MEDIA="screen" />

```

なお、このような相対参照が正常に動作するには、URL 内にパラメータ fragment=true を指定して Web ページにアクセスする必要があります。次に例を示します。

```

http://yourserver:port/peb/view/MyWebPage/MyWebPage.htm?
username=validUser&password=pass&provider=Native&fragment=true

```

リポジトリ内のカスタム Web ページの保存場所とは別の場所に Web サイトのリソースを保存する場合は、次のように絶対パスを使用すると、カスタム Web ページ (MyWebPage.htm など) から参照できます。

```


<script language="javascript"
src="/peb/view/MyWebPage/js/MyJS.js?fragment=true">
</script>
<LINK REL="StyleSheet"
HREF="/peb/view/MyWebPage/CSS/MyStyles.css?fragment=true"
TYPE="text/css" MEDIA="screen" />

```

また、次のように、パスに完全修飾のホスト名とポートを使用することによっても参照できます。

```
  
<script language="javascript"  
src="http://yourserver:8080/peb/view/  
MyWebPage/js/MyJS.js?fragment=true">  
</script>  
<LINK REL="StyleSheet" HREF="http://yourserver:8080/peb/view/  
MyWebPage/CSS/MyStyles.css?fragment=true" TYPE="text/css"  
MEDIA="screen"/>
```

サードパーティの Cookie に関するメモ

HTML IFRAME に埋め込まれている公開された IBM® SPSS® Statistics レポート (.spw) を参照する HTML ページを作成する場合、ログイン画面を表示しないよう、サードパーティに関する Cookie の Internet Explorer のプライバシー設定を調整する必要があります。

このシナリオは、外部 Web ページから .spw を呼び出し、IFRAME を使用して複数のレポートを 1 つの web ページに埋め込んで表示する場合にのみ発生します。HTML ページにアクセスすると、レポートが実行され、iFrame の中に表示されます。Deployment Portal URL パラメータを IFRAME に埋め込むと、Cookie は、サードパーティの Cookie とみなされます。Internet Explorer のプライバシー設定（ツール/インターネットオプション/プライバシー）では、サードパーティの Cookie はデフォルトでブロックされます。この設定により、Web ページにアクセスすると（URL に正しいユーザー名とパスワードが含まれている場合でも）ログイン画面が表示されます。この動作を変更するには、Internet Explorer のプライバシー設定を更新します。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services のドメイン名または IP アドレスを「許可」する管理サイトに追加します。これにより、アドレスからのすべてのCookieを受け入れられ、ログイン画面が表示されなくなります。

以下は、リポジトリに公開された .spw レポートを示すHTML の例です。

```
<iframe frameborder=1 src="http://yourserver:8080/peb/view  
/jba/accidents.spw?partId=5&fragment=true&username=admin&password=  
yourpwd&provider=Native" style="WIDTH: 800px;HEIGHT: 280px" name="I1">  
</iframe>
```

この問題は Internet Explorer だけではなく、サポートされている他のブラウザで発生するので注意してください。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services には、管理者および上級ユーザー向けに JavaServer Page (JSP) タグ ライブラリが用意されています。タグ ライブラリを使用すると、リポジトリ項目間のリレーションシップと、相互に値の受け渡しができる項目を含むカスタム Web ページ (.jsp ページ) を作成できます。タグ ライブラリには、次の基本機能が用意されています。

認証: ユーザー、パスワード、およびセキュリティ プロバイダを設定し、ページに定義された項目またはプロンプト間で共有できます。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository の項目へのアクセス、およびデータ ソース認証にはこの機能が必要です。

項目: 対象「コンテナ」 (<div> または <iframe> 要素) など、項目の定義を指定することができます。項目の実行には、IFRAME ターゲットでは POST 要求、DIV ターゲットでは AJAX (Asynchronous JavaScript and XML) がそれぞれ使用されます。

プロンプト: プロンプトを使用すると、項目の実行に使用するパラメータを動的に調整できます。プロンプトの場所は、現在のページ上に限られています。プロンプトは、ユーザー定義にするか、既存の項目定義から選択したパラメータにすることができます。

リレーションシップのリンク: 次のいずれかのリレーションシップを定義できます。

- ソース レポート項目と対象レポート項目、ジョブ、スコアリング、またはカスタム ダイアログ項目
- プロンプトと対象項目のリスト。アクティブ化する場所 (DIV または IFRAM) とそのタイミング (ONDEMAND、ONLOAD、または NONE) の両方を指定できます。

タグ ライブラリのフレームワークは、次の基本部分で構成されています。

- パブリック JavaScript API
- カスタム タグおよびその相互作用
- データ セット取得のためのタグ ライブラリ Bean [詳細は、 p. 66 タグ ライブラリ Bean を参照してください。](#)

このドキュメントでは、JSP タグ ライブラリで提供されるタグの機能を個別に説明します。また、使用例についても説明します。このドキュメントを読み終えたら、カスタム ページを作成する前に、タグ ライブラリに付属のサンプル .jsp ファイルを確認することをお勧めします。 [詳細は、p. 71 JavaServer ページのサンプル を参照してください。](#)

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library のアップグレード

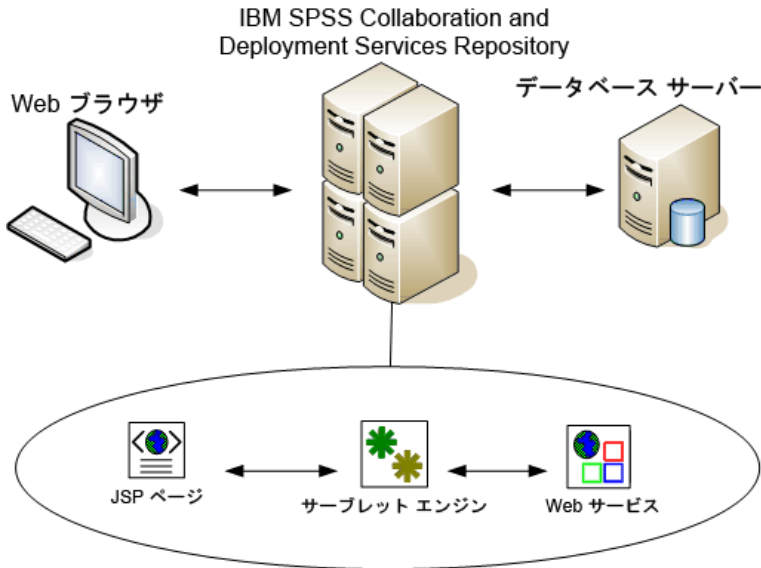
以前のバージョンの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services では、reporting-taglib.tld または pasw-taglib.tld という名前の .tld ファイルを使用していました。これらの名前のいずれかを使用する既存の JSP ページが IBMSPSSTaglib.tld を示すよう、更新する必要があります。

また、旧バージョンの IBM SPSS Collaboration and Deployment Services を使用して作成されたカスタム ページが現在のバージョンで期待される通りに実行することを確認する必要があります。場合によっては変更が必要になります。たとえば、レポート処理の変更では、レポートを含むページに対する変更を行う必要があります。

JavaServer ページのアーキテクチャ

“[JSP アーキテクチャ](#)” の図では、タグ ライブラリ使用の基底となるアーキテクチャを説明しています。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository をホストするアプリケーション サーバーには、ライブラリ タグに含まれる情報を IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services に含まれる Web サービスの入力に変換するサーブレット エンジンが含まれています。

図 4-1
JSP アーキテクチャ



タグ ライブラリを使用した項目の一般的な実行処理は、次のとおりです。

- ▶ JSP 開発者は、カスタム タグを使用して、.jsp ファイルで資格情報、プロンプト、項目、項目のリレーションシップを定義し、そのファイルを IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository をホストするアプリケーション サーバーに保存します。
- ▶ クライアントが .jsp ページにアクセスすると、サーバーがタグを評価し、適宜、XML データ アイランドまたは HTML 要素を生成します。フレームワークの JavaScript コンポーネントはこれを使用して、レポートとプロンプト間のリレーションシップを識別、管理します。
- ▶ 各タグ ハンドラで検証が実行され、該当するエラー メッセージがそのページに表示されます。ユーザーはページ作成の各段階でエラーを把握できます。
- ▶ サーブレットにより、項目の実行、および出力の処理と実行がサポートされます。
- ▶ 項目タイプに関連する Web サービスが、項目を実行し、さまざまな検証を行うよう起動されます。

サポートされる項目

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Tag Library を使用して、JSP ページのさまざまなリポジトリ項目を参照することができます。ページを処理する場合、MIME タイプの項目で項目の処理方法を指定します。有効な項目は次のとおりです。

- レポート
- ジョブ
- スコアリング モデル
- カスタム インターフェイス定義

レポート

レポートの場合、リポジトリ項目は次の種類のファイルのいずれかを参照する必要があります。

- BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポート デザイン (*.rptdesign)
- IBM® ShowCase® レポート (*.dbq または *.rpt)
- ビジュアライゼーション定義 (*.viz)

レポート項目を処理する場合、次のプロパティを考慮する必要があります。

出力： レポート項目は、通常単一の出力を生成します。ただし、ビジュアライゼーション レポートでは、ビジュアライゼーションに加えて画像マップを生成します。項目の出力は、レポート タイプに応じたさまざまな形式で配信されます。使用できる形式は、次のとおりです。

- HyperText マークアップ言語 (*.html)
- PDF 形式 (*.pdf)
- レポート文書 (*.rptdocument)
- HTML Complete (*.htmlc)
- MIME HTML (*.mht)
- Microsoft Word 文書 (*.doc)
- Microsoft PowerPoint (*.ppt)
- PNG 形式 (*.png)
- EMF 形式 (*.emf)
- JPEG 形式 (*.jpeg)

プロンプト： 処理時、レポートで定義されている変数の値を要求します。

場所の制限 :*.rptdocument タイプの出力は、IFRAME でのみ表示できます。

項目のリンク :レポート項目を、後続する項目のソースまたはその他の項目の対象として使用することができます。

サポートされるタグ :レポートでは、outputLocation タグはサポートされません。タグ ライブラリのその他すべてのタグはサポートされています。

項目には、ウィンドウのタイトルまたはツールバーの有無など、出力の表示を制御する追加情報が含まれている場合があります。

ジョブ

ジョブの場合、リポジトリ項目は application/x-vnd.spss-prms-job の MIME タイプの持つ IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services のジョブを参照する必要があります。ジョブ項目を処理する場合、次のプロパティを考慮する必要があります。

出力 : ジョブ項目は、さまざまなタイプの出力をいくつでも生成できます。作成される出力は、ジョブ内のステップによって異なります。

プロンプト : 処理時、ジョブで定義されているジョブ パラメータの値を要求します。

場所の制限 : ジョブ内の各ステップで作成される出力を明示的に定義する必要があります。

項目のリンク : ジョブ項目を、ソースとしてではなく、その他の項目の対象として使用できます。

サポートされるタグ : ジョブ項目では、actionHandler タグはサポートされません。タグ ライブラリのその他すべてのタグはサポートされています。

スコアリング モデル

スコアリング モデルの場合、リポジトリ項目は、スコアリングに構成されたファイルを参照する必要があります。使用できるファイルは次のとおりです。

- シナリオ (*.scn)
- IBM® SPSS® Modeler ストリーム (*.str)
- 予測モデルマークアップ言語 (PMML)
- リアル タイム予測アプリケーションの定義

スコアリング項目を処理する場合、次のプロパティを考慮する必要があります。

出力：スコアリング項目は、HTML 出力を作成します。

プロンプト：処理時、パラメータ、データファイル、データ プロバイダ定義、モデル名の値を要求することができます。

項目のリンク：スコアリング項目を、ソースとしてではなく、その他の項目の対象として使用できます。

サポートされるタグ：スコアリング項目では、outputLocation タグおよび actionHandler タグはサポートされません。タグ ライブラリのその他すべてのタグはサポートされています。

カスタム ダイアログ

注： IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services 環境でこの機能を使用するには、IBM® SPSS® Statistics アダプタが必要です。詳細は、SPSS Statistics インストール マニュアルを参照してください。

カスタム Web インターフェイスの場合、リポジトリ項目はダイアログ定義 (*.spd) を参照する必要があります。カスタム ダイアログ項目を処理する場合、次のプロパティを考慮する必要があります。

出力：カスタム ダイアログ項目は次のいずれかを生成します。

- フレームまたはウィンドウを対象とする必要がある単一出力ファイル (*.spw)
- フレーム/ウィンドウ、または DIV を対象とすることができる HTML。

プロンプト：処理時、ダイアログ定義で定義されているプロンプトの値を要求します。項目では、データ セットも要求できます。ただし、.spd ファイルに定義されるプロンプトのヘルプは使用できません。アプリケーションには、独自のヘルプ リファレンスがあります。

場所の制限：出力は、フレーム、DIV、または新しいウィンドウで表示することができます。

項目のリンク：ダイアログ項目を、ソースとしてではなく、その他の項目の対象として使用できます。

サポートされるタグ：ダイアログ項目では、actionHandler タグはサポートされません。タグ ライブラリのその他すべてのタグはサポートされています。

カスタム ダイアログ項目を参照する URL で使用するために記述された Web 展開プロパティを、`repositoryItem` タグにネストされた、または `sourceLinkPrompt` タグを使用するプロパティとして、タグ ライブラリで指定することができます。詳細は、3 章 p.21 [カスタム ダイアログ パラメータ](#) を参照してください。

`dataset.uri` プロパティおよび `dataset.table` プロパティは常に定義する必要があり、後者のプロパティは、データ プロバイダ 定義にのみ適用されます。それに対し、`javascript.url`、`javascript.name`、`stylesheet.url`、および `stylesheet.name` プロパティはすべて無視されます。これらのプロパティの値は、JSP 自体で定義する必要があります。

アプリケーションの構築

カスタム アプリケーションの各 JSP では、タグ ライブラリが正しく使用および参照されるようにするために、いくつかの標準のディレクティブを定義する必要があります。最初のディレクティブ、`page` では、ページ全体のプロパティを設定します。これらのプロパティには、次のようなものがあります。

- ページで使用されるスクリプト言語を定義する `language` 属性。
- クライアントへの応答に使用される MIME タイプと文字セットを指定する `contentType` 属性。
- タグ ライブラリでセッションに関する情報を格納するかどうかを示す `session` 属性。

2 つ目のディレクティブ、`taglib` は、どのタグを JSP ページで使用するかを示します。このディレクティブで定義されるプロパティは次のとおりです。

- `IBMSPSSTaglib.tld` への適切なパスを指定する `uri` 属性。
- タグの範囲を定義する `prefix` 属性。

以前のバージョンの IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services では、`reporting-taglib.tld` または `pasw-taglib.tld` という名前の `.tld` ファイルを使用していました。これらの名前のいずれかを使用する既存の JSP ページが `IBMSPSSTaglib.tld` を示すよう、更新する必要があります。

次のサンプルでは、`page` ディレクティブを使用してコンテンツ タイプ `text/html`、使用する文字セット UTF-8、スクリプト言語 Java、およびセッション オブジェクトの使用を `true` として定義しています。`taglib` ディレクティブでは、レポート `.tld` ファイルの場所を指定し、その中で定義されているすべてのタグに対するプレフィックス `r` を指定します。

```
<%@ page contentType="text/html;charset=utf-8"
    language="java" session="true" %>
```

```
<%@ taglib uri="/WEB-INF/tlds/IBMSPSSTaglib.tld" prefix="r" %>
```

```
<!DOCTYPE html PUBLIC "-//W3C//DTD HTML 4.01 Transitional//EN"
http://www.w3.org/TR/html4/loose.dtd">

<html>
<!-- Rest of HTML / JSP goes here -->
</html>
```

アプリケーションを運用環境で使用するには、Web アプリケーション アーカイブ (.war) ファイルを作成してその中に .jsp ファイルを格納し、独立した Web アプリケーションとしてアプリケーション サーバー上に展開することを検討してください。こちらの方法をお勧めします。

たとえば、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services のデフォルトのインストールに含まれている、拡張されたサンプル レポート作成タグ ライブラリのアプリケーション アーカイブ (IBMSPSSTaglib.tld.war) の構造は、次のとおりです。

```
IBMSPSSTaglib
├── index.html
├── setup.html
├── js
│   └── <JavaScript files>
├── jsp
│   └── <Java Server Page files>
├── META-INF
│   └── MANIFEST.MF
│       └── WEB-INF
│           ├── web.xml
│           ├── weblogic.xml
│           └── lib
│               └── <Java archive files>
│                   └── tlds
│                       ├── IBMSPSSTaglib.tld
│                       └── reporting-taglib.tld
└── xsl
    └── <Extensible Stylesheet Language files>
```

なお、配置する .war ファイルには、TLD (タグ ライブラリ記述子) ファイルおよびライブラリ (.jar ファイル) が含まれていることが必要です。また、TLD ファイルは、アプリケーション記述ファイル (web.xml) でも参照されます。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE web-app PUBLIC "-//Sun Microsystems, Inc.//DTD Web Application 2.3//EN"
"http://java.sun.com/dtd/web-app_2_3.dtd">
<web-app>
  <filter>
```

```

    <filter-name>Common Authentication Filter</filter-name>
    <filter-class>com.spss.report.taglib.filter.AuthFilter</filter-class>
</init-param>
    <param-name>PARAMETER_ENCODING</param-name>
    <param-value>UTF-8</param-value>
    <description>Parameter Encoding</description>
</init-param>
<init-param>
    <param-name>SSO_ADAPTER_CLASS</param-name>
    <param-value>com.spss.er.sso.authenticator.SessionAuthenticatorImpl</param-value>
    <description>SSO Authenticator Impl class</description>
</init-param>
</filter>
<filter-mapping>
    <filter-name>Common Authentication Filter</filter-name>
    <url-pattern>/reportingTaglib/*</url-pattern>
</filter-mapping>
<filter-mapping>
    <filter-name>Common Authentication Filter</filter-name>
    <url-pattern>/tagLib/*</url-pattern>
</filter-mapping>
<servlet>
    <servlet-name>ReportingTaglibServlet</servlet-name>
    <display-name>
        Servlet responsible for fulfilling all requests from
        reporting taglibs
    </display-name>
    <servlet-class>
        com.spss.report.taglib.servlet.ReportingTaglibServlet
    </servlet-class>
</servlet>

<servlet-mapping>
    <servlet-name>ReportingTaglibServlet</servlet-name>
    <url-pattern>/reportingTaglib/*</url-pattern>
</servlet-mapping>

<servlet-mapping>
    <servlet-name>ReportingTaglibServlet</servlet-name>
    <url-pattern>/tagLib/*</url-pattern>
</servlet-mapping>

<!-- Start : Taglib Node -->

<taglib>
    <taglib-uri>/reporting-taglib.tld</taglib-uri>
    <taglib-location>/WEB-INF/tlds/IBMSPPSSTaglib.tld</taglib-location>
</taglib>

```

```

<!-- End : Taglib Node -->

<!-- start : Security-Constraint Node -->
<!-- End : Security-Constraint Node -->
</web-app>

```

また、アプリケーション記述子は、ReportingTaglibServlet サブレットが /taglib および /reportingTagLib URL パターンのいずれかにマップするよう指定し、いずれかの URL がサブレットをコールします。サブレットの Java クラスは、com.spss.report.taglib.servlet.ReportingTaglibServlet です。オプションのシングル サインオン機能は、サブレット フィルタ Common Authentication Filter によって有効化されます。com.spss.report.taglib.filter.AuthFilter クラスを使用し、URL によってサブレットにマップされます。フィルタは、エンコードと SSO アダプタ クラス パラメータによって初期化されます。

.war ファイルの詳細は、http://java.sun.com/j2ee/tutorial/1_3-fcs/doc/WebComponents3.html などのオンライン リソースを参照してください。その他の情報や要件については、アプリケーション サーバーのドキュメンテーションを参照してください。

重要: タグ ライブラリまたはカスタム アプリケーションなど、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services インストール スクリプトまたは IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Package Manager によって展開されていないアプリケーション .war ファイルは、クラス ローダの順序を変更する必要があります。たとえば、WebSphere のレポート作成タグ ライブラリおよびスコアリング ライブラリ アプリケーションの場合、クラス ローダの順序を [アプリケーション クラス ローダを使用してロードしたクラスを最初に] および .war クラス ローダ ポリシーを [アプリケーションの単一クラス ローダ] に設定します。

実装の詳細

カスタム .jsp ページを作成する場合は、次のことを認識しておく必要があります。

- サーバーが停止するたびに、tmp/deploy ディレクトリに直接格納されている .jsp ファイルは失われます。.jsp ファイルを保持するには、ローカル ドライブにバックアップを保存し、サーバーの再起動後に復元します。運用環境アプリケーションは、.war ファイルにパッケージ化する必要があります。詳細は、[p. 38 アプリケーションの構築](#) を参照してください。
- Internet Explorer 6.0 および Mozilla Firefox™ 1.5 を使用できません。Firefox には、次の制限事項があります。

■ 画像やグラフを含むレポートの場合、.mht 出力形式は、すべての画像/グラフおよび HTML を Internet Explorer のみと互換性のある単一ファイルに結合します。

■ IBM® ShowCase® Report Writer レポート (.rpt) では、図表用に特別な技術が使用されます。この技術と互換性があるのは、Internet Explorer だけです。

- サーバーは、可能な範囲であらかじめすべてのタグを検証し、エラーを検出すると HTTP 応答にエラー メッセージを書き出します。JSP の開発者はこれを参考にして、ページ作成時の問題を解決することができます。たとえば、必要な資格情報がすべて定義済みであること、資格情報の内容、レポート パラメータの存在、レポート オブジェクト用の列名の存在、項目間のリンクの論理的妥当性などが検証されます。
- タグにはリポジトリ サーバーが必要です。
- タグ ライブラリによって、プロンプトと項目、行クリックと対象項目、同一フレーム内のレポートとドリルダウン レポート、プロンプト/テーブル行と別ウィンドウに表示される対象項目をそれぞれリンクできます。
- リンク動作はすべてユーザーに対して非表示であり、sourceLinkRepositoryItem JSP タグまたは sourceLinkPrompt JSP タグ、あるいはその両方を使用して定義されます。ユーザーは、JSP タグの使用方法以外の技術について理解する必要はありません。
- すべての対象項目は、渡されるパラメータを受け取るためのパラメータを指定して事前に定義しておく必要があります。
- カスタム ダイアログの場合、標準 CSS が、repositoryItem タグが使用される時点で自動的に指定されるデフォルトのスタイルを定義します。これらのスタイルを優先させるには、repositoryItem タグの後にカスタム スタイル シートを指定します。次に例を示します。

```
<r:repositoryItem name="sample" inputURI="spsscr:///myDialog.spd"
...more here...
</r:repositoryItem>
```

```
<link rel="stylesheet" type="text/css" href="MyStyles.css">
```

パブリック JavaScript API

フレームワークでは、リポジトリ項目を処理してブックマークされたレポート値を取得、カスケード プロンプト値を取得する JavaScript 関数を用意しています。

runRepositoryItem 関数

項目を実行するためにフレームワークで用意されているパブリック JavaScript 関数は、runRepositoryItem です。この JavaScript をイベント ハンドラに接続することによって項目を実行できます。プロンプトを使用する場合は項目をアクティブ化することができます。ただし、この関数を使用して項目を直接実行する場合は、標準のプロンプト検証は省略されます。関数を呼び出す前のパラメータの検証はアプリケーション側で行う必要があります。

この関数は、次の 3 つの引数を受け取ります。

- 実行する項目の名前に対応する文字列。名前は、repositoryItem タグの name 属性を使用して定義されている必要があります。
- 項目実行時にパラメータ値として使用されるデータ値の配列。配列の構造は次のとおりです。

```
var thisVar = new Object();
thisVar.value = "param_value";
thisVar.columnName = "param_name";
var linkedData = new Array(thisVar);
```

- 項目出力のターゲットの場所を指定するパラメータ（省略可能）。repositoryItem タグの location 属性と同じルールに従います。DIV の ID、IFRAME または FRAME の名前、*NEW あるいは *windowName を指定できます。省略した場合は、repositoryItem のデフォルトの場所が使用されます。

データ値配列は、次のいずれかの方法で指定できます。

- null（または省略）。この場合、必要な値は、項目で定義されている sourceLinkPrompt タグを使用して取得されます。
- actionHandler からのリンクデータ。actionHandler タグは、呼び出される関数と、イベントの一部としてキャプチャされるパラメータ値を定義します。これらのパラメータは、runRepositoryItem API に直接渡すことができます。
- ユーザー定義。runRepositoryItem API を呼び出している JavaScript は、必要に応じて上記の配列の値を定義できます。columnName は、sourceLinkVariable タグで定義されている列の名前です。値は、パラメータとして渡す値です。

getBookmarkedValues 関数

getBookmarkedValues 関数は、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートでブックマークされたセルの値を取得します。セルの id 属性は、ブックマーク値に設定する必要があります。この関数は、クロス集計用や

ネストされたテーブルを使用する複雑な BIRT Report Designer for IBM SPSS レポートをリンクするのに使用することができます。

`getBookmarkedValues` 関数は、次の引数を受け取ります。

- 関数が、ブックマークの配列で指定された項目に一致する値の取得するよう検討する必要があるレポートの DOM の親ノード。
- 値が必要な レポートで定義されたブックマークの配列。例：
[“bookid1” , ” bookid2”]

この関数は、レポート実行時にパラメータ値として使用するデータ値の配列を返します。配列の構造は次のとおりです。

```
var thisVar = new Object();
  thisVar.value = "cell_value";
  thisVar.columnName = "bookmark";
```

`columnName` は、ブックマークの名前です。 `value` は、ブックマークされている特定のセルの値です。

retrievePromptValues 関数

`retrievePromptValues` 関数は、カスタム コントロールでパラメータを使用する場合にコールする必要がある、カスケードおよび非カスケード プロンプトの両方をサポートします。本文 `onLoad` ハンドラでこの関数をコールし、プロンプト（またはカスケード プロンプトの場合親プロンプト）の初期値をロードします。カスケード パラメータの定義に使用するコントロールの `onChange` ハンドラでこの関数をコールします。この関数は、サーバーに対するコールを行い、プロンプト値を取得して、選択した親パラメータの値によって、パラメータ コントロールに更新された値を入力します。

`retrievePromptValues` 関数は、次の引数を受け取ります。

- カスケード パラメータの定義を含むレポートの名前を示す文字列。名前は、`repositoryItem` タグの `name` 属性を使用して定義されている必要があります。
- レポートのパラメータ名に対応する文字列。カスケード パラメータの場合、文字列はカスケード パラメータ グループの名前です。レポートにはカスケード グループが必要です。
- 値の配列を受け取り、新しいオプションのテキストを表示するユーザー定義の関数。配列は `Null` の場合があります。その場合、関数はコントロールをクリアします。この関数は、`retrieveCascadingPromptValues` によってコールされ、パラメータ コントロールに新しい値を投入します。

```
function callback(options) {
  // logic to clear the control
  // logic to add value and display text to control
```

```

for(var i = 0; i < options.length; i++) {
    control.value = options[i].value;
    Display Text for control = options[i].displayText;
}
}

```

- カスケード グループにある選択された先行する値の配列。この配列はカスケード パラメータにのみ必要で、非カスケード パラメータの場合は省略する必要があります。パラメータは順番に並んでいる必要があります。親カスケード パラメータのリストを取得するには、先行値を指定します。

```
var precedingvals= new Array();
```

先行値の配列の構造は次のとおりです。たとえば、MN の都市のリストを取得するには、次のようになります。

```

precedingvals= new Array();
precedingvals[0]="USA";
precedingVals[1]="MN";

```

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library タグ リファレンス

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Tag Library のタグはお互いに依存し、検証の目的でリファレンスが正しく一致していることを認識する必要があります。タグは正しい順序で定義する必要があります。次の項では、使用できる各タグについて詳細に説明します。

このタグ ライブラリは、JSP 1.2 に依存します。

credential タグ

credential タグは、データ ソースのログイン資格情報とリポジトリのログイン資格情報を定義します。資格情報は、ページで定義されたすべての項目またはプロンプトの名前で参照されます。資格情報を参照する必要があるタグの前に定義する必要があります。通常使用する場合は、JSP で参照される最初のタグとなります。

credential タグには、properties 要素を含むことができます。たとえば、J. D. Edwards (JDE) 対応データ ソースの場合、credential は次のようになります。

```

<credential>
  <properties>
    <property name="JDE_LIBRARY_LIST_SELECTED" value="liblist_name"/>
  </properties>
</credential>

```

ネストするタグ

なし

期待される出力

なし。このタグは、認証情報を提供します。タグは出力を作成しませんが、report タグまたは prompt タグで後から使用するために、name 属性をキーとして使用し、資格情報をキャッシュします。

テーブル 4-1
credential タグの属性

名前	必須	説明
name	true	<p>IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository 資格情報の内部名、またはリポジトリ項目オブジェクトで使用されるデータ ソース名。これを使用して、項目およびプロンプトをこの資格情報にリンクさせ、参照項目が必要とするデータ ソース ログインを満たします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リポジトリの資格情報の場合、repositoryItem タグの repositoryCredentialName 属性で提供された名前に一致する必要があります。 ■ データベースの資格情報の場合、データソースを使用する項目によって参照されるため、名前はデータ ソース名と一致する必要があります。 <p>この名前を使用して、セッション変数の資格情報値を保存します。すべての資格情報には一意の名前を付ける必要があります。</p>
useSSO	false	<p>Kerberos のシングルサインオン資格情報を使用する必要があることを示します。この属性が true に設定されている場合、ユーザー名、パス</p>

名前	必須	説明
		<p>ワード、プロバイダ属性を指定することはできません。</p> <p>SSO を使用する場合、認証フィルタを web.xml file に設定する必要があります。詳細は、p. 38 アプリケーションの構築 を参照してください。</p>
credentialDefinitionName	false	<p>リポジトリのリソースとして定義される資格情報の名前。この値を指定すると、username、password、および provider 属性を、この情報を含む資格情報のリソースとして定義する必要はありません。</p>
provider	false	<p>リポジトリの資格情報の場合、これはオプションのセキュリティ プロバイダ名です。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ (組み込みプロバイダ) のネイティブ ■ Active Directory の AD_<name>/<domain>。<name> はシステム内のセキュリティ プロバイダ名に対応しており、<domain> は DNS 名前空間に対応しています。 ■ ローカル オーバーライドの Active Directory の ADL_<name>/<domain>。<name> はシステム内のセキュリティ プロバイダ名に対応しており、<domain> は DNS 名前空間に対応しています。 ■ iSeries for IBM i ■ OpenLDAP の ldap_<name>。<name> はシステム内のセキュリティ プロバイダ名に対応しています。

名前	必須	説明
		指定されていない場合、リポジトリ組み込みセキュリティ プロバイダが使用されます。データベースの資格情報の場合、この属性は無視されます。
username	false	認証に使用するユーザー名。
password	false	指定したユーザー名のパスワード。パスワードは、タグ ライブラリによって内部で使用されません。JSP の結果には書き込まれません。

使用例

次の使用例では、3 つの資格情報を指定します。最初の資格情報は、ユーザー名およびパスワードを指定して IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository にアクセスするためのものです。provider の Native の値は、検証のためのユーザー名/パスワードのペアがネイティブのローカル セキュリティ プロバイダで定義されていることを示します。2 番目の資格情報は、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository にアクセスする場合、ユーザーが以前認証された資格情報を使用したシングルサインオンを採用しています。3 番目の資格情報は Northwind という名前のデータ ソースのものです。

```
<r:credential name="repositoryCredential" provider="Native"
  username='admin' password='password' />
<r:credential name="repositorySSO" useSSO="true" />
<r:credential name="Northwind" username='sa' password='sa' />
```

repositoryItem タグ

repositoryItem タグは、アプリケーションに使用されるリポジトリ項目定義を定義する主要タグです。repositoryItem タグは、レポート (IBM® ShowCase® レポート、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートまたはビジュアライゼーション レポート)、ジョブ、スコアリング項目、または SPD ファイルを参照することができます。リポジトリ項目を直接実行し、プロンプトを提供、またはプログラマ的に実行するために使用場合があります。

sourceLinkPrompt タグおよび sourceLinkRepositoryItem タグは、repositoryItem タグ内にネストされている必要があります。

- ユーザーが別の項目をクリックした場合にこの項目を実行する場合、sourceLinkRepositoryItem タグを使用します。
- パラメータ値がページ上で定義された、または項目で直接定義されたプロンプトに由来している場合、sourceLinkPrompt を使用します。

オプションで、リポジトリ項目の種類に特有の追加プロパティを指定することができます。Firefox ブラウザで動作するよう、プロパティ名は小文字である必要があります。これらのプロパティ値は、URL に渡され、リポジトリ項目を実行します。プロパティはネストされた XML ブロックとして指定されます。

ネストするタグ

このタグには、1 つの sourceLinkRepositoryItem タグまたは複数の sourceLinkPrompt タグと outputLocation タグが含まれます。

テーブル 4-2
repositoryItem タグの属性

名前	必須	説明
name	true	項目の一意の名前を定義します。その他のタグによって、または runRepositoryItem() JavaScript API を介して名前を参照することができます。
inputURI	true	項目出力を表示するために使用するレポート定義。この値は、項目定義を検索するために使用する必要がある URI を指定します。次の URI スキーマがサポートされています。 <ul style="list-style-type: none"> ■ file: アプリケーション サーバーまたはネットワーク ファイルの場所にある特定ファイルを参照します。 ■ spsscr: IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository のファイルを参照します。このスキーマを使用して、ファイルをリポジトリ内の識別子ま

名前	必須	説明
		<p>たは階層パスによって参照することができます。特定のバージョン マーカーを指定することができます。バージョンまたはラベルが指定されていない場合、最新バージョンが使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ scoring: リポジトリのモデル構成を参照します。スコアリング構成は、タグ ライブラリの名前によって参照されます。スコアリング構成の名前が変更されている場合、タグ ライブラリ リファレンスも変更する必要があります。
activate	true	<p>項目が有効化されることを指定します。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ONDEMAND: ソース レポートの行をクリックして有効化したときに項目を実行します。 ■ ONLOAD: ページが最初にロードされた場合に項目を実行します。 ■ NONE: 項目は自動的に実行されません。この場合、項目を使用してプロンプトまたはプロンプト値を提供します。 <p>有効化設定に関係なく、パブリック JavaScript <code>runRepositoryItem()</code> API を使用してレポートをプログラマ的に実行することができます。</p>

名前	必須	説明
場所	false	<p>項目を実行して作成される出力の宛先。使用方法は、対象のタイプによって若干異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ DIV ターゲットの場合、出力が配置される DIV タグの ID を指定する必要があります。 ■ IFRAME ターゲットの場合、フレームの名前を指定する必要があります。 ■ 新しいウィンドウで項目出力を開くには、*NEW の場所を指定します。 ■ 出力を指定したウィンドウに指示するには、ウィンドウ名の前に (*) を使用します。たとえば、*MYWINDOW の場合、MYWINDOW という新しいウィンドウが開き、リンクの有効化ごとにそのウィンドウを再利用します。
repositoryCredentialName	true	<p>リポジトリから項目をアクセスし、レポート作成サービスを使用して項目を実行する場合に使用する必要がある資格情報の名前。資格情報は、credential タグを使用して、あらかじめ定義されている必要があります。</p>
outputType	false	<p>生成する出力データのタイプ。サポートされている出力タイプは項目タイプによって異なります。通常は HTML または PNG となりますが、次のようなオプションもあります。</p> <p>BIRT Report Designer for IBM SPSS レポート: HTML、PDF、RPT 文書、PowerPoint、Word 文書、HTMLC</p>

名前	必須	説明
		<p>ビジュアライゼーション レポート: PNG、EMF、JPEG、HTML</p> <p>IBM® ShowCase® Query: HTML、PDF、CSV、WK4、Excel 97/2003、xlsx</p> <p>IBM® ShowCase® Report Writer: HTML、PDF、MHT</p> <p>指定されていない場合、出力のデフォルトは HTML となります (ビジュアライゼーション レポートの場合は PNG)。BIRT Report Designer for IBM SPSS または ShowCase レポートをリンク ソースとして使用する場合、その他の出力 タイプではリンクをサポートしていないため、outputType が無視され、HTML が生成されます。</p> <p>ビューアを使用するレポートを表示するには、RPTDocument のタイプを指定します。このタイプの場合、対象は iframe です。</p>
showTitle	false	<p>BIRT ビューアのタイトル バーを表示するかどうかを指定します。値を true または false に指定します。この設定は、outputType がレポート Report Viewer を表示する RPTDocument である場合に適用されます。デフォルトは true です。</p>
title	false	<p>BIRT Viewer のタイトルを指定します。この設定は、outputType がレポート Report Viewer を表示する RPTDocument である場合に適用されます。指定されていない場合は、デフォルトのタイトルが表示されます。</p>

名前	必須	説明
showToolBar	false	BIRT ビューアのツールバーを表示するかどうかを指定します。値を true または false に指定します。この設定は、outputType がレポート Report Viewer を表示する RPTDocument である場合に適用されます。デフォルトは true です。
showNavigationBar	false	BIRT ビューアのナビゲーションバーを表示するかどうかを指定します。値を true または false に指定します。この設定は、outputType がレポート Report Viewer を表示する RPTDocument である場合に適用されます。デフォルトは true です。
幅	false	出力画像の幅です。0 より大きい数を指定し、高さと一緒に合わせて指定する必要があります。指定されていない場合、デフォルトの幅と高さを使用されます。
height	false	出力が増加である場合に使用する高さです。幅も同時に指定する必要があります。指定しない場合、設定は有効となりません。値は 0 より大きい数でなければなりません。

使用例

次の使用例では、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository に保存されている BIRT Report Designer for IBM SPSS レポートの AllCountries という項目を定義しています。

```
<r:repositoryItem name="AllCountries"
  inputURI="spsscr:///SampleReports/BIRT/CountrySales.rptdesign"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="HTML" width="400" height="300"
  activate="ONLOAD" location="ReportDIV">
</r:repositoryItem>
```

項目のパラメータ値を要求するには、sourceLinkPrompt タグを使用します。次の使用例では、JavaScript 関数の getValue を使用して、パラメータ ShipCountry の値を取得します。

```
<r:repositoryItem name="CountrySales"
  inputURI="spsscr:///SampleReports/BIRT/CountrySalesByCity.rptdesign"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="HTML" activate="ONDEMAND" location="ReportDIV">
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="ShipCountry"
    getValueJSFunction="getValue('IDFilter')"/>
</r:repositoryItem>
```

ユーザーのアクションに対応して 2 番目の項目を実行するには、sourceLinkRepositoryItem タグを使用します。次の使用例では、ソース レポート AllCountries のアクションに対応してビジュアライゼーション レポート CityDetails を実行します。

```
<r:repositoryItem name="CityDetails"
  inputURI="spsscr:///SampleReports/Vis/CitiesBarChart.viz"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="png" width="400" height="300"
  activate="ONDEMAND" location="SecondReportDIV">
  <r:sourceLinkRepositoryItem sourceReportName="AllCountries">
    <r:sourceLinkVariable columnName="ShipCountry" targetNameParameter="ShipCountry"/>
  </r:sourceLinkRepositoryItem>
</r:repositoryItem>
```

repositoryItemPrompt タグ

repositoryItemPrompt タグは、参照項目で定義されるプロンプト変数の HTML を生成します。プロンプトが参照する項目は、このタグを使用する前に repositoryItem タグを使用して定義する必要があります。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal で使用するプロンプト コントロールと同じものをアプリケーションでも使用する場合に、このタグを使用します。

このタグは、タグが使用されている場所に HTML プロンプト コントロールを生成します。タグは、役立つ項目の特定のパラメータと関連する必要があります。パラメータとの関連付けは、sourceLinkPrompt タグを使用して行われます。この場合、sourceLinkPrompt の promptID は、このタグの promptID に一致する必要があります。

ネストするタグ

なし

期待される出力

ユーザーが `promptType` として選択される `parameterName` に応じて個人的な値を選択または入力することができる HTML 要素。
`repositoryItemPrompt` タグは、Deployment Portal がサポートしているすべてのパラメータをサポートしています。結果として、プロンプトのすべてのタイプがサポートされ、適切な HTML 要素が生成されます。

テーブル 4-3
`repositoryItemPrompt` タグの属性

名前	必須	説明
<code>promptId</code>	false	<code>sourceLinkPrompt</code> タグの <code>promptId</code> 属性から参照することができる一意の識別子。
<code>repositoryItemName</code>	true	<code>repositoryItem</code> タグの <code>name</code> 属性で定義された項目名に対する参照。
<code>parameterName</code>	false	項目で定義されたプロンプト変数の名前。

使用例

次の使用例では、Employees レポートで `EmployeeID` パラメータの値を要求しています。

```
<repositoryItem name="Employees"
  inputURI="file:///d:/yourDS/ReportTaglib/Employees.dbq"
  repositoryCredentialName="localhost" activate="NONE" />

<repositoryItemPrompt promptId="EmployeeIdPrompt"
  repositoryItemName="Employees" parameterName="EmployeeID" />
```

report タグ

このタグは非推奨となっています。代わりに `repositoryItem` タグを使用してください。

reportPrompt タグ

このタグは非推奨となっています。代わりに `repositoryItemPrompt` タグを使用してください。

outputLocation タグ

このタグは、リポジトリ内にある生成された出力と、出力が表示されるページ上の場所を関連付けます。項目を実行すると、出力がリポジトリから取得され、ページ上で指定された対象位置に表示されます。

このタグは、常に repositoryItem タグ内にネストされている必要があります。

ネストするタグ

なし

テーブル 4-4
outputLocation タグの属性

名前	必須	説明
outputId	false	これは、リポジトリ内にある出力へのパスです。カスタム ダイアログの場合、この属性は省略します。シンタックス実行の出力は、自動的に検出されます。
場所	true	この属性は、出力を表示するページ上の場所を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ DIV ターゲットの場合、出力が配置される DIV タグの ID を指定する必要があります。 ■ IFRAME ターゲットの場合、フレームの名前を指定する必要があります。 ■ 新しいウィンドウでレポート出力を開くには、*NEW の場所を指定します。 ■ 出力を指定したウィンドウに指示するには、ウィンドウ名の前に (*) を使用します。たとえば、*MYREPORTS の場合、MYREPORTS という新しいウィンドウが開き、リンクの有効化ごとにそのウィンドウを再利用します。

名前	必須	説明
		HTML 出力は DIV を対象としています。その他すべての出力は IFRAME またはウィンドウを対象としています。
partId	false	SPW アーカイブ出力の特定部分または項目を識別するために使用します。 注: IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services 環境でこの機能を使用するには、IBM® SPSS® Statistics アダプタが必要です。詳細は、SPSS Statistics インストールマニュアルを参照してください。

使用例

次のサンプルでは、ChartFRAME IFRAME タグを使用して IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository に保存したグラフの出力場所を指定します。

```
<outputLocation outputId="spsscr:///output/output_chart.png"
  location="ChartFRAME"/>
```

属性がパラメータ値に依存する場合、sourceLinkPrompt タグを使用してパラメータに対する一致を定義します。一致が検出された場合、パラメータの代わりになります。たとえば、次のサンプルでは、パラメータに依存するファイル名を持つ 2 つの outputLocation タグを定義します。

```
<repositoryItem name= "Call Center Score"
  inputURI= "spsscr:///job7/Call Center"
  repositoryCredentialName="localhost"
  activate="ONDEMAND"/>
  <outputLocation outputId="spsscr:///output/output_tab_${JobParam1}.png"
    location="ChartFRAME"/>
  <outputLocation outputId="/output/output_chart_${JobParam2}.html"
    location="ReportDIV"/>
  <sourceLinkPrompt promptId="JobParam1" parameterValue="Jan" />
  <sourceLinkPrompt promptId="JobParam2"
    targetNameParameter="html_id_for_the_value" />
</repositoryItem>
```

JobParam1 の場合、Jan の値が名前に代入され、output_chart_Jan.png が ChartFRAME に表示されます。

JobParam2 の場合、パラメータの html コントロールに関連する値が名前に代入されます。その値が Illinois の場合、ファイル output_tab_Illinois.html が ReportDIV に表示されます。

sourceLinkPrompt タグ

sourceLinkPrompt タグは、項目パラメータを、値を提供しているプロンプトと関連付けます。これらは、ユーザー定義された HTML 要素、JavaScript 関数、repositoryItemPrompt タグを使用して作成されたプロンプト、または直接指定された値です。

sourceLinkPrompt は、常に repositoryItem タグ内にネストされている必要があります。項目を実行すると、項目のパラメータ値は sourceLinkPrompt を使用して取得されます。

ネストするタグ

なし

実行される検証

なし

期待される出力

なし

テーブル 4-5
sourceLinkPrompt タグの属性

名前	必須	説明
targetNameParameter	true	リポジトリ項目で定義されるレポート パラメータの名前。複数のテーブルを使用するモデルをスコアリングする場合、値を table.parameter に指定します。table はテーブル名、parameter はパラメータ名です。
promptId	false	promptId は、reportPrompt タグの名前または HTML コントロールの ID です。プロンプト値が必要である場合、reportPrompt または HTML コントロールを使用してプロンプト値を指定します。

名前	必須	説明
		promptId、parameterValue または getValueJSFunction のいずれかを指定する必要があります。
parameterValue	false	パラメータ値を要求する代わりにパラメータ値を指定します。JSP の処理時に、アプリケーションがパラメータ値を認識している場合に指定する必要があります。その場合、属性を使用して直接値を指定する必要があります。 parameterValue を指定すると、promptId および getValueJSFunction を使用することはできません。
getValueJSFunction	false	プロンプト値を取得するために呼び出す関数を識別します。関数は、単独の値を返すか、値の配列を返す必要があります。 この属性には、必要に応じて、関数名、かつこ、パラメータが含まれています。たとえば、1つのパラメータを使用する MyGetValues というパラメータの場合、属性を MyGetValues('myPromptID') に設定します。
validateJSFunction	false	プロンプトの検証を行うために呼び出す関数を識別します。プロンプトが有効な場合、関数は true を返す必要があります。 この属性には、必要に応じて、関数名、かつこ、パラメータが含まれています。たとえば、1つのパラメータを使用する MyValidate というパラメータの場合、属性を MyValidate('myPromptID') に設定します。

使用例

次の使用例では、`repositoryItemPrompt` タグを使用して 2 つのパラメータ値を要求しています。CountrySales レポートの `sourceLinkPrompt` タグでは、これらのプロンプトの識別子を使用して、値をレポートに提供します。

```
<r:repositoryItem name="CountrySales"
  reportDefinitionURI="spsscr:///SampleReports/BIRT/CountryCity_cascadingParameter.rptdesign"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="HTML" activate="ONDEMAND" location="ReportDIV">
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="ShipCountry" promptId="IDFilter"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="ShipCity" promptId="IDFilter1"/>
</r:repositoryItem>
```

```
<table width="95%" cellpadding="1" bgcolor="black">
  <tr bgcolor="white">
    <r:repositoryItemPrompt promptId="IDFilter" repositoryItemName="CountrySales1"
      parameterName="ShipCountry"/>
  </tr>
  <tr bgcolor="white">
    <r:repositoryItemPrompt promptId="IDFilter1" repositoryItemName="CountrySales1"
      parameterName="ShipCity"/>
  </tr>
</table>
```

モデルのスコアリングには、同様の手法を使用できます。次の中では、`input` タグを使用して 5 つのパラメータ値を要求しています。Configuration 項目の `sourceLinkPrompt` タグでは、これらのプロンプトの識別子を使用して、値をレポートに提供します。

```
<table>
  <tr>
    <td>Age</td>
    <td><input name="Age" id="Age" type="text"/></td>
  </tr>
  <tr>
    <td>Blood Pressure</td>
    <td><input name="BP" id="BP" type="text"/></td>
  </tr>
  <tr>
    <td>Cholesterol</td>
    <td><input name="Cholesterol" id="Cholesterol" type="text"/></td>
  </tr>
  <tr>
    <td>K</td>
    <td><input name="K" id="K" type="text"/></td>
  </tr>
</table>
```

```

    <td>Na</td>
    <td><input name="Na" id="Na" type="text"/></td>
  </tr>
</table>

```

```

<r:repositoryItem name="MyConfiguration" inputURI="scoring:///KMeans"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential" outputType="HTML"
  activate="ONDEMAND" location="ReportIframe">
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Age" promptId="Age"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="BP" promptId="BP"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Cholesterol" promptId="Cholesterol"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Drug" parameterValue="DrugX"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="K" promptId="K"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Na" promptId="Na"/>
</r:repositoryItem>

```

Drug パラメータの値は、parameterValue 属性を使用してページ内で DrugX として指定されます。

スコアリング設定によって使用されるパラメータが別のテーブルで定義される場合、パラメータ名にテーブル名を接頭辞として追加し、それらの間にピリオドを入れます。たとえば、Age と BP が Table1 で定義され、残りのパラメータが Table2 で定義されている場合、sourceLinkPrompt 要素が次のように指定されます。

```

<r:repositoryItem name="MyConfiguration" inputURI="scoring:///KMeans"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential" outputType="HTML"
  activate="ONDEMAND" location="ReportIframe">
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Table1.Age" promptId="Age"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Table1.BP" promptId="BP"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Table2.Cholesterol" promptId="Cholesterol"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Table2.Drug" parameterValue="DrugX"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Table2.K" promptId="K"/>
  <r:sourceLinkPrompt targetNameParameter="Table2.Na" promptId="Na"/>
</r:repositoryItem>

```

sourceLinkRepositoryItem タグ

sourceLinkRepositoryItem タグは、項目の定義されたパラメータを満たすために使用するソース項目および変数を識別します。このメカニズムを使用して、ソース項目がクリックされた場合に、親項目はネストされた sourceLinkVariable タグで定義されたパラメータを使用して実行されます。

このタグは、常に repositoryItem タグ内にネストされている必要があります。1 つまたは複数の sourceLinkVariable タグが含まれている必要があります。

ネストするタグ

sourceLinkRepositoryItem タグには、ソース列および対象パラメータ名を識別する sourceLinkVariable タグが 1 つまたは複数含まれています。

期待される出力

なし

テーブル 4-6

sourceLinkRepositoryItem タグの属性

名前	必須	説明
sourceName	true	リレーションシップのソースとして機能する repositoryItem の名前
linkType	false	現在のレポートの実行を開始するソース レポートのアクションを指定します。現在サポートされている linkType は row のみです。このタイプの場合、ソース レポートの行をクリックすると、対照のレポートが実行されます。今後のリリースで、linkTypes が追加される場合があります。

使用例

次の使用例では、AllCountries レポートのユーザー アクションに対応して実行するレポートとして CityDetails を識別します。

```
<r:repositoryItem name="CityDetails"
  inputURI="spssc:///SampleReports/BIRT/CountrySalesByCity.rptdesign"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="HTML" width="400" height="300"
  activate="ONDEMAND" location="SecondReportDIV">
  <r:sourceLinkRepositoryItem sourceReportName="AllCountries">
    <r:sourceLinkVariable columnName="ShipCountry"
      targetNameParameter="ShipCountry" />
  </r:sourceLinkRepositoryItem>
</r:repositoryItem>
```

sourceLinkReport タグ

このタグは非推奨となっています。代わりに sourceLinkRepositoryItem タグを使用してください。

sourceLinkVariable タグ

sourceLinkVariable タグは、ソース項目で使用する変数または列と、対象項目で定義されたパラメータで使用する変数または列の間のマッピングを定義します。このタグは、常に sourceLinkRepositoryItem タグ内にネストされている必要があります。

ネストするタグ

なし

実行される検証

なし

期待される出力

なし

テーブル 4-7

sourceLinkVariable タグの属性

名前	必須	説明
columnName	true	IBM® ShowCase® レポートの場合、この属性はソース レポートの列名を指定します。ビジュアライゼーション レポートの場合、この属性にはビジュアライゼーション指定の sourceVariable 要素または derivedVariable 要素の ID が含まれます。現在、カテゴリ変数のみがサポートされています。
targetNameParameter	true	対象クエリーのパラメータ名

使用例

次の使用例では、AllCountries レポートの ShipCountry 変数を、CityDetails レポートの ShipCountry パラメータにマップします。

```
<:repositoryItem name="CityDetails"
  inputURI="spsscr:///SampleReports/Vis/CitiesBarChart.viz"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="png" width="400" height="300"
  activate="ONDEMAND" location="SecondReportDIV">
  <:sourceLinkRepositoryItem sourceName="AllCountries">
```

```

    <r:sourceLinkVariable columnName="ShipCountry" targetNameParameter="ShipCountry"/>
  </r:sourceLinkRepositoryItem>
</r:repositoryItem>

```

actionHandler タグ

項目に適用する必要があるアクション ハンドラを定義します。アクション ハンドラを定義すると、sourceLinkRepositoryItem を使用する自動リンク設定は適用されません。アプリケーション ビルダーは、runRepositoryItem パブリック Java スクリプト API を使用して対象項目を実行します。

ネストするタグ

パラメータとして JavaScript 関数に渡す必要があるデータ値は、ネストされたactionParameter タグを使用して定義する必要があります。

テーブル 4-8
actionHandler タグの属性

名前	必須	説明
event	true	イベント名。有効なイベントは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ■ onclick ■ onmouseover ■ onmouseout
function	true	イベント発生時に呼び出す Java スクリプトの関数名。() またはパラメータを使用せず、関数名のみです。
partId	false	アクションを適用する必要があるレポートの特定部分を識別するために使用します。

使用例

次の repositoryItem タグでは、発生するイベントの各タイプに 1 つずつ、3 つのアクション ハンドラを定義します。各ハンドラーは、後続の処理を定義する一意の JavaScript 関数を呼び出します。

```

<r:repositoryItem name="AllCountries"
  inputURI="spsscr:///SampleReports/BIRT/CountrySales.rptdesign"
  repositoryCredentialName="repositoryCredential"
  outputType="HTML"
  width="400" height="300"
  activate="ONLOAD" location="ReportDIV">
  <r:actionHandler event="onclick" function="myOnClick">

```

```

    <r:actionParameter name="ShipCountry"/>
  </r:actionHandler>
  <r:actionHandler event="onmouseover" function="myOnOver">
    <r:actionParameter name="ShipCountry"/>
  </r:actionHandler>
  <r:actionHandler event="onmouseout" function="myOnOut" />
</r:repositoryItem>

```

actionParameter タグ

actionHandler JavaScript 関数に渡す必要のある項目の各データ値の actionParameter である必要があります。このタグは、常に actionHandler タグ内にネストされている必要があります。

ネストするタグ

なし

テーブル 4-9
actionParameter タグの属性

名前	必須	説明
name	true	<p>関数に渡されるレポート結果の値を定義する列または変数の名前。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ビジュアルライゼーション レポートの場合、名前は sourceVariable 要素または derivedVariable 要素の id 属性です。現在、カテゴリ変数のみがサポートされています。 ■ IBM® ShowCase® レポートの場合、列名となります。

使用例

次の使用例では、ユーザーがレポートをクリックした場合に JavaScript 関数 myOnClick に渡される ShipCountry という actionParameter を定義します。

```

<r:actionHandler event="onclick" function="myOnClick">
  <r:actionParameter name="ShipCountry"/>
</r:actionHandler>

```

タグ ライブラリ Bean

フレームワークには、さまざまな目的で同時に使用できるタグ ライブラリ Beans が用意されています。たとえば、Bean を使用して、カスタム HTML コントロールの作成に使用できるデータ セットを取得することができます。

Bean を使用するには、最初にその Bean への参照を JSP の中で宣言する必要があります。これは、`page` ディレクティブの `import` 属性を使用して行います。

```
<%@ page contentType="text/html;charset=utf-8"
    language="java"
    session="true"
    import="java.util.Map"
    import="java.util.HashMap"
    import="com.spss.report.taglib.bean.ReportBean"
    import="com.spss.report.taglib.bean.Credential"
%>
```

Bean のコード サンプルでは、JavaServer Pages Standard Tag Library (JSTL) を使用しています。JSTL は、`taglib` ディレクティブを使用して指定する必要があります。

```
<%@ taglib uri="http://java.sun.com/jstl/core" prefix="c" %>
```

JSTL の詳細は、[Sun のドキュメント \(http://java.sun.com/products/jsp/jstl/\)](http://java.sun.com/products/jsp/jstl/) を参照してください。

Credential Bean

`Credential` Bean は、その他の Bean で使用される資格情報を定義します。次に示すコード サンプルでは、2 つの資格情報を作成して `HashMap` に格納します。このサンプルでは、localhost 資格情報によって IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository のログオン情報を指定しています。ps4008 資格情報は、レポート定義で参照される ps4008 という SQL Server データ ソースに対するものです。

```
<%
Map credentialMap = new HashMap();
Credential repositoryCredential = new Credential("localhost","Native","admin","spss",null);
Credential datasourceCredential = new Credential("ps4008",null,"sa","sa",null);
credentialMap.put("localhost",repositoryCredential);
credentialMap.put("ps4008",datasourceCredential);
%>
```


ReportBean Bean

次に、**ReportBean** を使用して、レポート定義で定義されているデータ セットのデータを取得します。次に示すコードでは、前に作成した **credentialMap** を使用してデータ セットを取得します。ビジュアライゼーション レポートでは、この関数はサポートされません。

```
<!-- Creating JavaBeans -->
<jsp:useBean id="report" class="com.spss.report.taglib.bean.ReportBean">
  <jsp:setProperty name="report" property="reportDefinitionURI"
    value="file:///d:/SPSS/ps4008/Test.dbq" />
  <jsp:setProperty name="report" property="repositoryCredentialName"
    value="localhost" />
  <jsp:setProperty name="report" property="host" value="localhost" />
  <jsp:setProperty name="report" property="port" value="8080" />
  <jsp:setProperty name="report" property="dataSetName"
    value="DataSet1" />
  <jsp:setProperty name="report" property="credentialMap"
    value="<%=credentialMap%"/> />
</jsp:useBean>
```

このコードで使用されるプロパティは次のとおりです。

- レポートの場所を指定する `reportDefinitionURI` プロパティ。
- ホストを識別する `repositoryCredentialName` プロパティ。
- ポートを定義する `port` プロパティ。
- BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートのレポート定義で定義されているデータ セットの名前を指定する `dataSetName` プロパティ。これは、IBM® ShowCase® レポートでは適用されないので省略してください。
- 使用する資格情報を含む `HashMap` への参照を定義する `credentialMap` プロパティ。

これで、**ReportBean** を実行してデータ セットを返すことができますようになります。次のコードに示すように、このデータを使用してリスト コントロールを生成できます。

```
<SELECT style="WIDTH :250 px" ID="EmployeeID_Prompt" NAME="EmployeeID_Prompt"
  TABINDEX="2">
<c:forEach var="row" items="{report.rows}">
  <c:forEach var="column" items="{row.columns}">
    <c:if test="{column.name == 'EmployeeID'}">

      <OPTION VALUE='<c:out value="{column.value}" />' />
      <c:out value="{column.value}" />
    </OPTION>
  </c:if>
```

```

</c:forEach>
</c:forEach>
</SELECT>

```

SearchBean Bean

SearchBean Bean は、指定された基準を満たす、リポジトリのコンテンツを検索するための、クエリ メカニズムを提供します。たとえば、Bean は、データ プロバイダ定義のリストと、指定された検索基準に一致する IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository の IBM® SPSS® Statistics データ ファイル (.sav) ソースを取得することができます。以下のコードは、これらのソースに関連する MIME タイプを使用して、すべてのデータ プロバイダ定義と SPSS Statistics ソースに問い合わせる Bean プロパティを定義します。

```

<jsp:useBean id="data_sources"
  class="com.spss.report.taglib.bean.SearchBean" scope="page">
  <jsp:setProperty name="data_sources" property="request" value="<%= request %>" />
  <jsp:setProperty name="data_sources" property="credentialName"
    value="AuthenticationCredential" />
  <jsp:setProperty name="data_sources" property="searchQuery"
    value="<%= "( '$$search/mimetype='application/x-vnd.spss-spss-data' or "
      + "$$search/mimetype='application/x-vnd.spss-statistics-data' or "
      + "$$search/mimetype='application/x-vnd.spss-data-provider') %>" />
</jsp:useBean>

```

このコードで使用されるプロパティは次のとおりです。

- `HttpServletRequest` オブジェクトを定義する `request` プロパティ。
- リポジトリへの接続に必要な資格情報を指定する `credentialName` プロパティ。この場合、値は、`credential` タグを使用して定義された資格情報 `AuthenticationCredential` に対応しています。
- 検索基準を示す文字列を指定する `searchQuery` プロパティ。文字列の構造は、URL 文字列の `dataset.search.criteria` パラメータに使用されるシンタックスに一致します。

これで、**SearchBean** を実行して一致するデータ ソースを返すことができるようになります。以下のコードは、テーブル内のデータ ソースの名前、更新日、バージョン ラベル、および作者のメタデータを示します。

```

<Table border="0" height="100%" width="100%" cellpadding="0" cellspacing="0">
  <tr>
    <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
      Data Source
    </td>
    <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
      Modified Date
    </td>
  </tr>
</Table>

```

```

</td>
<td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
  Version Label
</td>
<td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
  Author
</td>
</tr>
<c:forEach var="data_source" items="${data_sources.records}" varStatus="status"
  begin="0" end="3" step="1">
<tr>
  <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
    <c:out value="${data_source.title}" />
  </td>
  <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
    <c:out value="${data_source.modifiedDate}" />
  </td>
  <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
    <c:out value="${data_source.versionLabel}" />
  </td>
  <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px; padding-bottom:5px;">
    <c:out value="${data_source.author}" />
  </td>
</tr>
</c:forEach>
</Table>

```

PevMetaDataBean Bean

PevMetaDataBean Bean は、データ プロバイダ定義の変数メタデータと、IBM® SPSS® Statistics データ ファイル (.sav) ソースを取得します。以下のコードは、.sav ファイルを問い合わせる Bean のプロパティを定義します。

```

<jsp:useBean id="variables"
  class="com.spss.report.taglib.bean.PevMetaDataBean" scope="page">
  <jsp:setProperty name="variables" property="request" value="%= request %"/>
  <jsp:setProperty name="variables" property="dataseturi"
    value="spsscr:///sav_files/demo.sav" />
  <jsp:setProperty name="variables" property="credentialName"
    value="AuthenticationCredential" />
</jsp:useBean>

```

このコードで使用されるプロパティは次のとおりです。

- `HttpServletRequest` オブジェクトを定義する `request` プロパティ。

- 変数を指定するデータ ファイルまたはデータ プロバイダ定義の URI を指定する `dataseturi` プロパティ。
- リポジトリへの接続に必要な資格情報を定義する `credentialName` プロパティ。この場合、値は、`credential` タグを使用して定義された資格情報 `AuthenticationCredential` に対応しています。

これで、`PevMetaDataBean` を実行して、データセットの変数のメタデータを返すことができるようになります。以下のコードは、テーブル内のメタデータを示します。

```
<Table border="0" height="100%" width="100%" cellpadding="0" cellspacing="0">
  <tr>
    <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px;
      padding-bottom:5px;">
      Variable Name
    </td>
  </tr>
  <c:forEach var="group" items="{variables.variablesMetaData}" >
    <c:forEach var="v" items="{group.variableMetaData}" varStatus="status"
      begin="0" end="3" step="1">
      <tr>
        <td align="center" bgcolor="#EEEEEE" style="padding-top:5px;
          padding-bottom:5px;">
          <c:out value="{status.count}" /> <c:out value="{v.name}" />
        </td>
      </tr>
    </c:forEach>
  </c:forEach>
</Table>
```

ScoringBean Bean

`ScoringBean` Bean は、スコアリング要求に対応できる指定モデルのスコアリング構成のリストを取得します。Bean の `getScoringConfigurations` メソッドは、次のパラメータを受け取ります。

- `Credential` Bean を使用して定義した IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository にアクセスするための資格情報を指定する `credential` パラメータ。
- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository のモデルの URI を識別する `modelLocationUri` パラメータ。

また、`Credential` Bean 項目を指定する代わりに、次の 2 つのパラメータを使用して、資格情報を指定することができます。

- `HttpServletRequest` オブジェクトを指定する `request` パラメータ。
- `credential` タグを使用して定義された IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository への接続に必要な資格情報を定義する `credentialName` パラメータ。

次のコードは、`credential` タグを使用して定義した資格情報を使用し、スコアリング要求に対応できるモデル `KMeans.xml` のスコアリング構成を取得します。

```
<r:credential name="repositoryCredential" provider="Native"
  username='<%= request.getParameter("userid")%>'
  password='<%= request.getParameter("password")%>' />

<%
  String[] configurations = ScoringBean.getScoringConfigurations(request,
    "repositoryCredential", "spsscr:///Sample/KMeans.xml");
%>
```

Bean によって返される配列を使用して、ユーザーが後続するスコアリングに使用するスコアリング構成を選択できる形式を投入することができます。

```
<form id="selectConfigurationForm" target="ScoringIframe" method="POST">
  <div style="display:none">
    <input name="userid" type="text" value="<%= request.getParameter("userid")%>" />
    <input name="password" type="text" value="<%= request.getParameter("password")%>" />
  </div>
  Select Scoring Configuration:
  <select name="selectedConfiguration" onchange="onSelectConfiguration(this)">
    <option></option>
    <%
      for (int i=0; i < configurations.length; i++)
      {
    %>
      <option value="<%= configurations[i].replaceAll("[ ]", "%20")%>">
        <%= configurations[i] %></option>
    %>
      }
    %>
  </select>
</form>
```

JavaServer ページのサンプル

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services には、タグ ライブラリ の使用方法を説明するさまざまな JSP サンプルが含まれています。サンプルは、次のカテゴリに分類されています。

- **レポート作成:** 選択に対応して 2 番目のレポートを実行するなど、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートおよびビジュアルイゼーション レポートをインタラクティブに使用します。これらのサンプルにアクセスするには、次の場所に移動します。

`http://<server-name>:<port>/IBMSPSSTagLib/index.html`

- **得点化:** 構成されたモデルに得点化するデータを提供する様々な手法を含む、得点化のために構成された予測モデルのスコアの生成。これらのサンプルにアクセスするには、次の場所に移動します。

`http://<server-name>:<port>/scoringTagLib/index.html`

一連のサンプルの URL で概要ページに戻れない場合、サンプルを含むパッケージまたは war ファイルを IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository サーバーに展開できません。Package Manager ツールを使用し、該当するパッケージを展開、またはアプリケーション サーバーに従って war ファイルを展開します。展開する war ファイルと必要なサンプル ファイルは、リポジトリ インストール ディレクトリの `./components/taglib/Samples/TagLib` ディレクトリにあります。

サンプルの概要ページで、サンプルの **[ソースを表示]** をクリックして、ソース コードを検証します。それらの機能を検証するために、**[実行]** をクリックしてページからサンプルを実行することができます。ただし、成功するには次のものがが必要です。

- IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Repository の特定のフォルダ構造のサンプル リソース。
- サンプルで参照されたリソースにアクセスするための有効な資格情報。

正常にサンプルを実行するために環境を構成する方法については、サンプルの概要ページを参照してください。

ポータル統合

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Web サービス アーキテクチャには、Web サービスを Web ポータル サーバーに統合する機能があります。この機能を利用すると、取り外し可能なユーザー インターフェイス コンポーネントで Web サービスを使用してマークアップ コードのフラグメントを生成し、このフラグメントを集めてポータル ページを作成するという方法で、高度にカスタマイズしたコンテンツを配信することができます。ポータル ページは一般に、互いに重ならないウィンドウの集合として表示され、各ウィンドウには特定のセグメントのコンテンツが表示されます。ポータル アプリケーションの例としては、E メール、天気予報、ディスカッション フォーラム、ニュースがあります。同様に、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services ポータルを使用すれば、レポートや分析処理の出力、グラフ、図表などのカスタマイズしたコンテンツを配信できるようになります。

リポジトリは、JSR 168 標準に基づいたポータルの統合をサポートしています。JSR 168 は、複数の Web ポータル間でポートレットを相互運用できるようにするために Java Community Process グループ (<http://jcp.org>) から提案されている標準です。この仕様では、ポートレット コンテナとポートレット間で相互動作する API セットを定義しており、カスタマイズ、プレゼンテーション、およびセキュリティの分野に対応します。JSR 168 の実装には、IBM Web ポータル (WebSphere)、Oracle Application Server Portal 10g、BEA WebLogic Portal、Vignette Portal、Sun Portal Server および JBoss などがあります。

リポジトリでは、Web パーツを使用した Microsoft SharePoint サーバーとのポータルの統合もサポートされます。

公式にサポートされているポータル環境は次のとおりです。

- WebSphere Portal Server 6.1
- Weblogic Portal Server 10.0
- JBoss Portal Server 2.6.1
- Sun Java Enterprise System 5
- Microsoft Sharepoint 2007 Server

リポジトリは、JSR 168 および J2SE 5.0 に基づくその他のポータル環境とも統合することができます。

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Portlet および IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Web Part を使用して、リポジトリ コンテンツをポータル ユーザーに配信することができます。アーキテクチャでは、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Web サービスを使用する JSR 168 準拠のカスタム ポートレット および SharePoint Web パーツを作成することもできます。

インストール

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services ポータル コンポーネントは、インストール セットの /PORTLET のリポジトリ インストール Disk 2 に IBMSPSSPortlet.war (ポートレット) および IBMSPSSWebPart.wsp (Web パーツ) として収録されています。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet のインストール

- ▶ IBMSPSSPortlet.war をインストールする手順は、ポータル サーバーの種類によって異なります。詳細は、ポータル サーバー ベンダーのドキュメンテーションを参照してください。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Web Part のインストール

SharePoint Web パーツをインストールするには、次のものがが必要です。

- Microsoft SharePoint 2007
- Microsoft Web Service Enhancement 2.0 (WSE 2.0 SP3)

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Web Part をインストールするには

1. リポジトリ インストール ディスクに収録されている IBMSPSSWebPart.wsp を、SharePoint ホスト上の事前定義されている場所 (たとえば c://temp) にコピーします。
2. SharePoint サーバー インストールの /bin ディレクトリから、次のコマンドを実行します。

```
stsadm -o addsolution -filename c:\tmp\IBMSPSSwebpart.wsp
```

```
stsadm -o deploysolution -name IBMSPSSwebpart.wsp -immediate -allowgacdeployment -url http://<hostname>
```

3. SharePoint の管理ユーティリティを使用して Web パーツを Web パーツ ギャラリーに追加し、それを後で展開します。詳細は、Microsoft SharePoint のドキュメンテーションを参照してください。

コンポーネントをインストールしたら、リポジトリの特定のリソースにアクセスするように構成する必要があります。コンポーネントの環境設定もセットアップする必要があります。

構成

ポータル コンポーネントがインストールされてポータル ページのレイアウトが完了すると、リポジトリ リソースにアクセスするようにコンポーネントを構成するためのプロンプトが表示されます。ポータル アクセスを構成するには一般に、リポジトリ サーバーの定義、リポジトリ資格情報の指定、ポータルで配信するリソースの選択を行い、必要に応じてデータ ソースの資格情報とデフォルトのプロンプト値の指定も行います。環境設定を指定して、コンポーネントの表示と動作を構成することもできます。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet の構成

ポートレットの構成ページを開きます。表示されるページは、ポートレット サーバーの種類に応じて異なる場合があります。

1. リポジトリのホストとポートを指定し、サーバーへの接続をセキュリティで保護するかどうかを指定します。

図 5-1
ポートレットの構成: リポジトリの指定

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet - 設定 ? Cancel

リポジトリ サーバーの識別

サーバー: 10.96.41.194

ポート: 8080

安全:

Licensed Materials - Property of SPSS Inc., an IBM Company. © Copyright 2004, 2010 SPSS Inc., an IBM Company.

次へ

2. ログイン認証のためのリポジトリ ユーザー資格情報とセキュリティ プロバイダを指定します。

図 5-2
ポートレットの構成: リポジトリ資格情報の指定

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet - 設定

ログイン資格情報の入力

ログイン名:

パスワード:

プロバイダ:

前へ 次へ

3. ポータルで配信するリポジトリリソースを選択します。必ず正しいリソースバージョンを指定してください。

図 5-3
ポートレットの構成: リソースの選択

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet - 設定

リポジトリ コンテンツ URI を入力してください

現在のパス /Reports

タイプ	タイトル	著者	更新日	MIME タイプ
	churn_analysis.HTMLC	admin	2010/06/28 15:40:08	HTML Archive
	churn_analysis.rptdesign	admin	2010/06/28 15:40:08	BIRT Report

LATEST
 Select Version

Previous Selection: spsscr:///Real Time Customer Responses

前へ 次へ

4. 必要に応じて、リソースで参照されるデータソースの資格情報を指定します。たとえば、レポートでデータベースを使用する場合は、データベース資格情報を指定する必要があります。リソースに応じて、複数のデータソースの資格情報を指定する必要がある場合があります。

図 5-4
ポートレットの構成: データソース資格情報の指定

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet - 設定 ? Cancel

Deployment Server DataSource ログイン

データ
ソース: bank_db

ユーザー ID:

パスワード:

前へ 次へ

- リソースにプロンプトが含まれている場合（レポートで値の動的な選択を許可できる場合など）は、デフォルトのプロンプト設定を指定します。

図 5-5
ポートレットの構成: デフォルトのプロンプト値の設定

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet - 設定 ? Cancel

パラメータ値の選択

プロンプト グループ:

Bi-Weekly

前へ 次へ

- 構成情報が正しいことを確認します。初めからやり直す場合は、[更新] をクリックします。

図 5-6
ポートレットの構成: 確認ページ

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Portlet - 設定 ? Cancel

構成入力の確認

Deployment Server: chiaessaoulov.spss.com

ポート: 8082

プロトコル: http

リポジトリ ユーザー: Native/admin

レポート URI: spsscr:///Real Time Customer Responses

更新 次へ

- [次へ] をクリックしてリソースの表示に進みます。

図 5-7
ポートレットの構成：完了メッセージ



初期構成の後で、ポートレットの設定を編集できます。たとえば、必要に応じて別のリポジトリ リソースをポイントすることができます。

- ▶ ポートレットの表示および動作に関するいくつかの側面は、環境設定で指定します。次の環境設定を指定できます。

環境設定	説明
expiration-cache	ポートレット キャッシュの有効期間、つまりポートレット出力が失効するまでの時間（秒数）。-1 は、出力が失効しないことを示します。デフォルト値は 600 です。
log-messages	ポートレット メッセージをポータル サーバーのログ ファイルについするかどうかを指定します。デフォルト値は NO です。
reenter-dsLogin	ユーザーがポータルにログインするたびにポートレット インスタンスのデータ ソース資格情報を指定する必要があるかどうかを指定します。デフォルト値は NO です。
reenter-parameter	ユーザーがポータルにログインするたびにポートレット インスタンスのプロンプト値を再入力する必要があるかどうかを指定します。デフォルト値は NO です。
refresh-parameter	ユーザーが入力した別のパラメータ値に基づいてコンテンツを再表示できるようにするかどうかを指定します。デフォルト値は NO です。
use-single-sign-on	ポートレットをシングル サインオンで使用するかどうかを指定します。デフォルト値は NO です。
validate-input-parameter	サイト間のスクリプト攻撃に対して保護するよう、ユーザー入力パラメータの検証を有効にします。デフォルト値は YES です。
window-height	ポートレット ウィンドウの高さ（ピクセル）。デフォルト値は 750 です。
window-title	ポートレット インスタンスの説明的な名前。
window-width	ポートレット ウィンドウの幅（パーセント）。デフォルト値は 100% です。

環境設定の値を指定するには、ポータル サーバーの管理機能を使用します。環境設定へのアクセス方法は、サーバーの種類に応じて異なります。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Web Part の構成

Web パーツ構成の基本的な手順は、ポートレット構成と同じです。リポジトリ ソースへのアクセスと構成オプションを設定します。リポジトリ ツリーに表示される項目の数（リソースを選択したとき）は、追加の構成オプションによって制御されます。

シングル サインオン

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services ではシングル サインオンによるアクセスが可能で、ポートレットまたは Web 向けにシングル サインオンによるアクセスを有効にするには、ポータル サーバーの特別な構成が必要な場合があります。シングル サインオンを有効にする手順は、ポータル サーバーによって異なります。たとえば、JBoss のポータル構成は次のとおりです。

- ▶ 下記の例のように Kerberos ベースのシングル サインオンの Java 引数が含まれるよう、`<JBoss installation folder>/bin/run.bat` ファイルを変更する必要があります。

```
set SSO_OPTS=-Djava.security.krb5.realm=SSOREALM.COM  
-Djava.security.krb5.kdc=kdchost.ssorealm.com  
-Djavax.security.auth.useSubjectCredsOnly=false
```

```
set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Dprogram.name=%PROGNAME% %SSO_OPTS%
```

```
set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Xms128m -Xmx512m -XX:PermSize=64m -XX:MaxPermSize=256m
```

- ▶ 次のセクションを `<JBoss installation folder>/server/default/conf/login-config.xml` に追加する必要があります。

```
<application-policy name="com.sun.security.jgss.initiate">  
  <authentication>  
    <login-module code="com.sun.security.auth.module.Krb5LoginModule" flag="required">  
      <module-option name="useTicketCache">true</module-option>  
      <module-option name="debug">false</module-option>  
    </login-module>  
  </authentication>  
</application-policy>
```

既知の問題

- ポートレットを JBoss ポータルで使用する場合、リポジトリ ツリービューが展開されない場合があります。この問題を修正するには、`<JBoss インストール フォルダ>/bin/run.bat` (UNIX の場合は `run.sh`)

を変更して、次の引数を `JAVA_OPTS` に追加して、新しいジェネレーションおよび永久ジェネレーションのサイズが大きくなるようにします。

`-XX:MaxNewSize=256m -XX:MaxPermSize=256m`

- Safari ブラウザで Cookie 設定を行うと、リポジトリのアーティファクトが、資格情報の要求なくポートレットに表示されることを防ぐことができます。ブラウザの Cookie ポリシーを、[Only from sites I visit] から [Always] に設定し、資格情報の要求が繰り返されないようにする必要があります。

HTML アーカイブ

HTML レポートでは通常、出力の外観を制御するスタイル シートを使用して、さまざまな参照画像を表示する多くの HTML ファイルを使用します。使用されているファイル数により、この出力と共有が問題となる場合があります。あるファイルがない、または間違っって参照されている場合、ページは適切に表示されません。

HTML Archive、または HTMLC の形式は、関連するすべての HTML アーティファクトを単一の、特定のブラウザに依存しないアーカイブ ファイルに投入することによって、イントラにリンクする多くのファイルを管理する場合の問題に対応します。IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository には、さまざまなクライアント アプリケーションでアーカイブの内容を表示できるようにするビューアが含まれています。リポジトリに保存されている HTMLC ファイルにアクセスする場合、アーカイブ内の関連する相互参照は、アーカイブ ファイルを参照する完全パスに自動的に置き換えられます。これにより、アーカイブ内のファイルへのリンクの問題は完全に解決し、正しく表示されます。

ファイル構造

HTMLC アーカイブ ファイルには、次のものが含まれています。

- アーカイブのルートにあるプライマリ HTML ファイル。HTMLC アーカイブを表示する場合、ビューアはアーカイブのルートにある .html 拡張子を持つ最初のファイルをプライマリ ファイルとして使用します。
- カスケード スタイル シート、画像、JavaScript、またはその他の HTML ファイルなど、プライマリ ファイルに参照されるセカンダリ ファイル。セカンダリ ファイルは、アーカイブ内の任意のフォルダにあります。

アーカイブ内のファイルに対するすべての参照では、相対パスを使用する必要があります。

HTMLC ファイルの作成

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository に保存されているレポート デザインを使用すると、HTMLC ファイルを BIRT Report Designer for IBM® SPSS® に作成できます。ただし、Java アーカイブ ツールまたは WinZip などファイル アーカイバを使用して、カスタ

ム HTMLC ファイルを作成することもできます。手動で HTMLC ファイルを作成する手順は次のとおりです。

1. ファイル システムにファイルの構造を作成します。
2. 出力ファイルに拡張子 .htmlc を指定して、これらのファイルおよびフォルダを含むアーカイブを作成します。

アーカイブのファイルは、手動で作成される場合と、自動的に作成される場合があります。たとえば IBM® SPSS® Statistics では、分析の結果を HTML 形式でエクスポートできます。生成された HTML ファイルと画像ファイルを HTMLC ファイルとしてアーカイブできます。また、HTML エディタを使用して、アーカイブするページを手動で作成できます。

カスタム HTMLC ファイルの例


この例では、“アーカイブ ファイル”  で示すフォルダ構造について考えます。

図 6-1
アーカイブ ファイル







HTML ファイルの gss.html は、images フォルダにある画像を参照し、css フォルダのカスケード スタイルシートのスタイルを使用します。Java アーカイブ ツールを使用すると、次のコマンドで、そのファイルを含む custom.HTMLC という名前の HTMLC ファイルを作成します。

```
jar -cvfM custom.HTMLC gss.htm images css
```

作成されるアーカイブの内容は、“HTMLC ファイル”  に表示されます。

図 6-2
HTMLC ファイル

件名	種類	パス
 my_styles.css	カスケード スタイル シートドキュ...	css\
 gss.html	HTMLドキュメント	
 gss1.jpg	JPEG イメージ	images\
 gss2.jpg	JPEG イメージ	images\

リポジトリにこの 1 つのアーカイブを保存すると、gss.html ページを、定義されたスタイルを使用する参照グラフィックとともに、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal や IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager などのリポジトリ クライアントに表示することができます。

カスタマイズの例

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal の [モデル管理] ページでは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository に展開されているモデルの実行中のパフォーマンスを監視できます。これらのモデル ファイルは、オンデマンドで、またはスケジュールに従って実行できるジョブに関連付けられています。IBM® SPSS® Modeler を使用してファイルを作成します。モデルの評価およびチャンピオン チャレンジャーのジョブは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Manager, を使用して設定および実行され、Deployment Portal は結果の表示にだけ使用されます。[モデル管理 ページ] 上のパネルとして表示される情報には、以下が含まれます。

- パフォーマンスが最高および最悪のモデルのリスト
- モデルのパフォーマンスのトレンド
- チャンピオン モデル
- 使用可能なすべてのモデル ファイルのリスト

[構成] パネルのオプションを使用して、表示パラメータを指定し、各タブの表示と非表示を切り替えることができます。

[モデル管理] ページの使用方法については、Deployment Portal ヘルプ システムを参照してください。

ユーザー インターフェイスのほとんどは、単一の Java Server Page (JSP) (MMDMaster.jsp) で構成されています。ページに表示されるインターフェイス コンポーネントは、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® またはビジュアルライゼーション レポートのいずれかです。これらのレポートは、「IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Tag Library」に表示されています。ページそのものの Deployment Portal への統合には、タブ拡張フレームワークが使用されます。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Tag Library

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Tag Library は、[モデル管理] ページのコンテンツの大部分を生成する BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートおよびビジュアルライゼーション レポートの実行をサポートします。また、レポート間の相互動作もサポートしており、ソース レポートからターゲット レポートを呼び出すことが可能で


```

outputType="HTML">
<ibmspss-taglib:sourceLinkPrompt
  targetNameParameter="LeastPerformingScenarios"
  parameterValue="<<localized text>>" />

<!--
<<<< Few other parameters which represent localized text>>>>
-->

<!-- This value comes from the User defined prompts -->
<ibmspss-taglib:sourceLinkPrompt
  promptId="Performance_Tab_NumberOfPerformers_Prompt"
  targetNameParameter="NumberOfPerformers"/>
<!-- The value of this parameter is specified in the tag itself -->
<ibmspss-taglib:sourceLinkPrompt
  targetNameParameter="RunsFromDate"
  parameterValue="<%=scenariosFrom%>" />
<ibmspss-taglib:sourceLinkPrompt
  targetNameParameter="RunsToDate"
  parameterValue="<%=scenariosTo%>" />
</ibmspss-taglib:repositoryItem>

```

repositoryItem タグ

レポート情報は、`repositoryItem` タグで指定されます。

```

<ibmspss-taglib:repositoryItem
  name="Performance_Tab_Report_Tag"
  inputURI="<<path of the Performance Report>>"
  repositoryCredentialName="localhost"
  activate="ONLOAD"
  location="Performance_Tab_Report_Output"
  outputType="HTML">

```

`repositoryItem` タグには、次の属性があります。

- `repositoryItem` タグを一意に識別する `name` 属性 `runRepositoryItem` パブリック API は、この名前を使用してレポートを表示します。[パフォーマンス] タブの場合、名前は `Performance_Tab_Report_Tag` です。
- レポートの場所を指定する `inputURI` 属性。[モデル管理] ページでは、すべてのレポートが、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Repository インストールの `peb-mmd` ディレクトリのサーバーのファイル システムから取得されます。URI には、有効な URI を指定する必要があります。
- `activate` 属性はレポートが実行されるタイミングを決定します。[パフォーマンス] タブの場合の値は `ONLOAD` で、ページの読み込み時にレポートが実行されることを示します。値 `ONDEMAND` は、レポートの実行をユーザーが開始することを示します。実行するには、`Reporting` タグ

ライブラリで提供される `runReport` パブリック API を呼び出します。
[詳細は、 p.88 JavaScript API を参照してください。](#)

- レポートを表示する場所を指定する `location` 属性。この属性は、HTML 要素の `id` に対応しており、`DIV` または `IFRAME` を指定できます。モデル管理の場合、レポートの場所は常に `DIV` となります。
- IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Tag Library を使用してレポートを表示する形式を指定する `outputType` 属性。指定する出力形式は、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポート エンジンでサポートされる形式でなければなりません。モデル管理で使用されるレポートの場合、出力タイプは常に HTML です。

sourceLinkPrompt タグ

`sourceLinkPrompt` タグでは、レポートへのプロンプトのリンクを指定します。つまり、レポートの実行中にプロンプト値をどのように取得するかを指定します。

モデル管理のプロンプト値を指定するには、2 つの方法があります。最初の方法では、次のように `parameterValue` 属性を使用します。

```
<ibmspss-taglib:sourceLinkPrompt
  targetNameParameter="RunsFromDate"
  parameterValue="<%=scenariosFrom%>" />
```

ここでは、プロンプトの名前は `RunsFromDate` です。これは、レポートの中で定義されています。このプロンプトの値は、`parameterValue` 属性で指定されます。この属性で渡される値は、レポートに直接渡されます。

プロンプト値を指定する 2 つ目の方法は、ユーザー プロンプトをレポート パラメータにリンクする方法です。次に例を示します。

```
<ibmspss-taglib:sourceLinkPrompt
  promptId="Performance_Tab_NumberOfPerformers_Prompt"
  targetNameParameter="NumberOfPerformers" />
```

```
<input type="hidden" id="Performance_Tab_NumberOfPerformers_Prompt"
  name="Performance_Tab_NumberOfPerformers_Prompt"
  value="<%=userProfile.getPerformanceSize()%>" />
```

この例の `promptId` 属性は、非表示の HTML `input` タグで定義される `id` を指しています。この例では、非表示フィールド `Performance_Tab_NumberOfPerformers_Prompt` で指定された値が、レポート実行時にレポート パラメータ `NumberOfPerformers` のプロンプト値として渡されます。

資格情報

[モデル管理] ページを構成するレポートは、リポジトリの基になるデータベースに対するクエリーを実行してコンテンツを取得します。そのため、レポートには、そのデータベースに対応するデータ ソースが必要です。このデータ ソース `MMDDataSource` は、ユーザーが最初に [モデル管理] ページを読み込むときにリポジトリ内に作成され、タグのいずれかでリポジトリ データベースへのアクセスが必要になったときに使用されます。

`MMDDataSource` データ ソースにアクセスするには、有効な資格情報をレポートで指定する必要があります。JavaServer Page の中で `credential` タグを使用して、この資格情報を定義します。

```
<ibmspss-taglib:credential
  name="MMDDataSource"
  username="<<some db user name>>"
  password="<< password for the user>>"/>
```

このデータ ソースの資格情報は、ページを表示する前に `Login.jsp` を通じて収集されるもので、リポジトリの基になるデータベースのユーザー名およびパスワードに対応します。有効な資格情報が取得されると、その資格情報はセッションが終了するまでの間キャッシュに保存され、レポートの実行に使用されます。モデル管理のレポートの定義では、データソースの名前が `MMDDataSource` となっています。

データ ソース資格情報に加え、モデル管理レポートには、レポートを実行するユーザーの資格情報も必要です。

```
<ibmspss-taglib:credential
  name="localhost"
  provider="<< some provider id >>"
  username="<< name of some CR user >>"
  password="<<password of the user >>"/>
```

この資格情報の名前は、`localhost` です。複数のセキュリティ プロバイダを使用できるようにリポジトリが構成されている可能性があるため、`provider` 属性が必要です。

`repositoryItem` タグには、有効なリポジトリ ユーザー資格情報が必要です。この資格情報は、タグの `repositoryCredentialName` 属性で指定されます。モデル管理の場合、この属性の値は、`localhost` です。これは、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal にログインしているユーザーのユーザー名、プロバイダ、およびパスワードに対応します。

ビジュアライゼーション レポートの実行

ビジュアライゼーション レポートを実行する方法は、BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポートで使用される方法と同じです。ただし、次のような使用方法の違いについて考慮してください。

- ビジュアライゼーション レポートでは、**repositoryItem** タグの **activate** 属性の値に、BIRT Report Designer for IBM SPSS レポートで使用される **ONLOAD** ではなく **ONDEMAND** を使用します。
- ビジュアライゼーション レポートに必要なパラメータは、マスター BIRT Report Designer for IBM SPSS レポートから渡されます。詳細は、[p. 89 ビジュアライゼーション レポートのインタラクティブ操作](#) を参照してください。

JavaScript API

タグ ライブラリには、JavaScript メソッドを使用して作成されたフレームワークがあります。これらの JavaScript メソッドは、信頼できる検証フレームワークを作り上げるだけでなく、オンデマンドでユーザーがレポートを実行するためのハンドルとなります。

レポートをオンデマンドで実行するためのパブリック API がタグ ライブラリに用意されています。このパブリック API は、IBMSPPSTagLib.war 内の `reportTagLibPublicAPI.js` ファイルにあります。この JavaScript ファイルには、次の API が含まれています。

```
function runRepositoryItem( reportName, linkData, targetId )
```

モデル管理の場合は、マスター レポートの子レポートを呼び出すときにこの関数が使用されます。

たとえば、[シナリオ] タブが表示されているときは、シナリオ レポートのデータが表示されます。マスター レポートの中にある、特定のシナリオのリンクをユーザーがクリックすると、JavaScript メソッド `showDetails` が呼び出されます。この JavaScript メソッドは BIRT Report Designer for IBM® SPSS® レポート内に埋め込まれており、`runRepositoryItem` メソッドを間接的に呼び出して 2 つのレポートを実行します。1 つはシナリオ詳細 BIRT Report Designer for IBM SPSS レポート、もう 1 つはシナリオ比較ビジュアライゼーション レポートです。

API 呼び出しの `linkData` が NULL の場合は、IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Tag Library のさまざまなタグを使用して指定された、JavaServer Page 内で使用可能なデータを使用してレポートが実行されます。Javascript コードは、`runRepositoryItem` を呼び出す直前に、パラメータ値を非表示の HTML コントロールに格納します。タグ ライブラリ フレームワークがこの値を取り出して、実行されるレポートにパラメータとして渡します。

targetID フィールドは、レポートが表示される場所を示す個々の DIV ID に対応します。

ビジュアライゼーション レポートのインタラクティブ操作

[チャンピオン] タブに表示されるビジュアライゼーション レポートによって生成されるパフォーマンスとシナリオのグラフでは、インタラクティブ操作がサポートされます。グラフ内の棒をユーザーがクリックすると、対応するシナリオの詳細が隣接するエリアに表示されます。この機能を実現するには、レポートで **actionHandler** タグと **actionParameter** タグを使用します。

ビジュアライゼーション レポートで **actionHandler** タグを使用することは、必須ではありません。一般に、**sourceLinkRepositoryItem** タグを利用すれば、ビジュアライゼーション レポートに対して同様の機能を実行できます。ただし、[モデル管理] ページの場合は、ビジュアライゼーション グラフがページ上に 2 回以上出現することがあります。詳細行を展開できるようにする、あるいは出力場所を指定してターゲット レポートを実行できるようにするには、アプリケーションに特殊なロジックが必要です。

actionHandler タグを使用すると、このような高度な制御が可能です。

パフォーマンスとシナリオ ビジュアライゼーション レポートを表示する ページ セクションを次に示します。

```
<ibmspss-taglib:repositoryItem
name="Champions_Scenario_Index_Report"
inputURI="ChampionsScenarioIndex.viz"
repositoryCredentialName="localhost"
activate="ONDEMAND"
outputType="HTML"
location="championsTabVisReport">
<ibmspss-taglib:actionHandler event="onclick" function="selectCCScenario">
<ibmspss-taglib:actionParameter name="filename" />
<ibmspss-taglib:actionParameter name="filepath" />
<ibmspss-taglib:actionParameter name="ccid" />
<ibmspss-taglib:actionParameter name="equivalencekey" />
</ibmspss-taglib:actionHandler>
</ibmspss-taglib:repositoryItem>
```

repositoryItem タグでは、表示される棒グラフに関する詳細を指定します。その下の階層の **actionHandler** タグは、棒の **onClick** イベントが発生するたびに JavaScript 関数 **selectCCScenario** が呼び出されることを示します。

actionHandler タグの下の階層にある **actionParameter** タグは、**filename**、**filepath**、**ccid**、および **equivalencekey** が **selectCCScenario** 関数に渡されることを示します。

これらの各フィールドは、ビジュアライゼーション レポートの XML 内で定義されます。**filename** 変数の定義を以下に示します。

```
<sourceVariable
categorical="true"
  id="filename"
  source="delimitedFileSource_430"
  sourceName="ct_filename">
```

このタグは、データ セット内で ct_filename として定義された列が、このレポートでは filename として使用されることを示しています。

JavaScript 関数 `selectCCScenario` は、イベントが発生したレポートの ID とパラメータ値の配列を受け取ります。この関数の内部では、従属する子レポートごとに `runReport` が呼び出され、値の配列が渡されます。 [詳細は、 p. 88 JavaScript API を参照してください。](#)

URL フラグメント

[モデル管理] ページでは、いくつかのリポジトリ アーティファクトが I-FRAME の中に表示されます。これらのアーティファクトは、特定のジョブの実行によって生成される出力です。

アーティファクトを読み込むには、I-FRAME のソースを次の形式の URL に設定します。

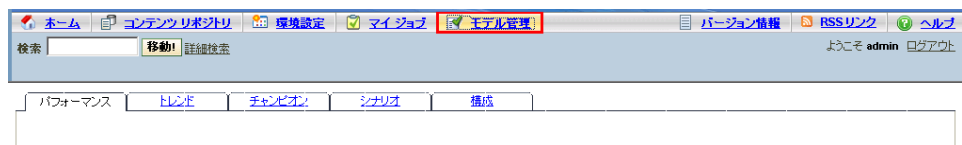
```
http://<servername>:<port>/peb/view?id=<artifact resource id>
```

詳細は、 [3 章 p. 6 URL パラメータ](#) を参照してください。

タブ拡張フレームワーク

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Deployment Portal のナビゲーション タブを拡張してカスタム エントリを組み込むことができます。これは、タブ拡張フレームワークを使用して行います。モデル管理の機能では、このフレームワークを使用してエントリ ポイントを [モデル管理] ページに追加しています。

図 7-2
モデル管理拡張



Deployment Portal は、次のディレクトリにある拡張ファイルを読み込みます。

```
<インストール ディレクトリ>\%components%\peb\extensions
```


これらのファイルがスキャンされ、peb-extension 要素のすべてのインスタンスが検出されます。これらの要素は、インターフェイスに個別に表示されます（ただし、要求されているアクションがユーザー資格情報の中にある場合）。カスタム アプリケーションでは、以下のものを用意する必要があります。

- 拡張 XML ファイル、またはアプリケーションの既存の拡張 XML に含まれるエントリ
- ローカライズ テキスト (.tx) ファイル内の適切なエントリ

モデル管理の機能は、リポジトリ インストールの staging ディレクトリの peb-mmd.package ファイルに格納されています。このパッケージの peb/extensions ディレクトリに、mmd_extension.xml というファイルがあります。この XML ファイルによって、[モデル管理] タブの外観と機能が制御されます。

```
<file-viewer>
  <peb-extension>
    <tab-id>pebMmdTab</tab-id>
    <tab-key>mmd/pebMmdTabTitle</tab-key>
    <tab-url>
      /peb-mmd/controller?actionName=LoginToMMDAction
    </tab-url>
    <tab-icon>/image2?file=somelcon.gif</tab-icon>
    <tab-position>2</tab-position>
    <tab-security>
      <capability>RunReport</capability>
      <capability>ViewModelManagementDashboard</capability>
    </tab-security>
  </peb-extension>
</file-viewer>
```

このファイル内で定義される要素は次のとおりです。

- タブの一意の ID である tab-id 要素。この例では、pebMmdTab です。
- 新しいタブに表示されるテキストを参照する tab-key。ローカライゼーションを可能にするために、モデル管理のローカライズ テキストは、拡張子 .tx を持つ別の XML ファイルに格納されています。キーで指定するのは、表示されるテキストが格納されているローカライゼーション ファイル内の要素です。この例の mmd/pebMmdTabTitle キーは、「モデル管理」というテキストに対応しています。
- ユーザーがタブをクリックすると起動する URL を指定する tab-url 要素。URL は、完全修飾形式（スラッシュ「/」記号から始まる）で指定することも、Deployment Portal アプリケーションを基準として相対指定することもできます。後者の場合は、コンテキストが peb であると見なされます。リンク先は有効な URI でなければなりません。URI の場所の指定はカスタム アプリケーション側で行う必要が

あります。モデル管理の場合は、war ファイル `peb-mmd.war` への参照がリンクに含まれています。

- タブへのアクセスに必要なアクションを指定する `tab-security` 要素。現在のユーザーがそのアクションを持たない場合は、タブはヘッダー JSP に表示されません。モデル管理では、`RunReport` アクションと `ViewModelManagementDashboard` アクションが必要です。

カスタム データ サービス ドライバの作成

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services データ サービス API では、非標準データ ソースにアクセスするためにカスタム ドライバを実装する Java インターフェイスを提供します。たとえば、運用データベース環境への JDBC または ODBC のアクセスがセキュリティの考慮事項により許可されない場合、カスタム ドライバが必要な場合があります。JDBC および ODBC のサポートがないファイルベースのデータ ソース、キャッシュ データ、または過去のデータ ソースに必要な場合もあります。この機能は主にスコアリングサービスによって使用されます。

この付録では、データ サービス API の概要、カスタム ドライバの作成方法、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services 付属のカスタム ドライバの例について記載しています。

データ サービス API

カスタム ドライバを実装する API は `com.spss.data.service.datasource` パッケージに次のインターフェイスのセットとして提供されます。

- `com.spss.data.service.datasource.DataService`
- `com.spss.data.service.datasource.DataServiceSession`
- `com.spss.data.service.datasource.DataServiceRequest`

パッケージ クラスは、<リポジトリのインストール ディレクトリ>/staging/scoring.package の `data-service.jar` にあります。

初期化

データ サービス オブジェクトを使用して、データ サービス名やプロパティなど、データ ソースに定義されたパラメータをでコネクタ インスタンスを初期化します。DataService インターフェイスを実装するクラスは、デフォルトのコンストラクタを使用する必要があります。

コネクタのインスタンスは、複数のイベントでキャッシュされます。インスタンス化されたコネクタの数は通常少ないため、リソースを大量に消費する初期化を実行し、リソースをキャッシュすることができます。同じデータ ソースに複数のインスタンスがある場合があります。終了メソッド

を使用してシステム リソースを解放することをお勧めします。コネクタの単一インスタンスは、複数の同時起動を処理できる必要があります。各起動では、独自の `DataServiceRequest` オブジェクトを作成します。オブジェクトは 1 回のデータ取得に使用できます。このオブジェクトは一度だけ問い合わせできます。データ サービス コネクタはクエリーの結果を取得する必要はありません。1 回のイベントで、データ サービスを最低限の回数起動します。循環リンクにより、テーブルは複数回問い合わせされる場合があります。データ サービス コネクタは、`DataServiceException` を使用してエラーを報告します。他の例外を出すことはできません。

データ処理

`DataServiceSession` オブジェクトは、イベントの処理中に `DataService` によってインスタンス化され、オブジェクトを使用してイベントごとのセッション状態を保持できます。その後セッション オブジェクトは、次のパラメータで `createRequest` を使用してクエリーごとに `DataServiceRequest` オブジェクトを初期化します。

- テーブルの名前
- 値を返す属性（列）の名前
- キー属性名の名前。
- オブジェクトのリストのセットとして指定されたキーの組。リストのオブジェクトの順序は、キー属性名で指定された属性の順序と一致します。

`DataServiceRequest` はレコードのリストを返します。各レコードには、属性値のリストが含まれます。属性値のリストは、`createRequest` メソッドに渡された属性名リストに対応する必要があります。属性値は、Java オブジェクト インスタンスとして返されます。返される各レコードは、キーの一部である属性に対応する値のセットは、キーの組の 1 つの一致する必要があります。次は IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services Enterprise View のデータ型と Java タイプとの間の対応を示しています。

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View のデータ型	必須 Java クラス
整数	<code>java.lang.Integer</code>
Long	<code>java.lang.Long</code>
Double	<code>java.lang.Double</code>
Float	<code>java.lang.Float</code>
文字列	<code>java.lang.String</code>
日付	<code>java.sql.Date</code>
日付/時刻	<code>java.sql.Time</code>
タイムスタンプ	<code>java.sql.Timestamp</code>

IBM SPSS Collaboration and Deployment Services Enterprise View のデータ型	必須 Java クラス
小数	java.math.BigDecimal
ブール	java.lang.Boolean

`value.isNil() = true` の場合 Nil オブジェクトを返すには、null オブジェクトを返す必要があります。

カスタム ドライバの作成

データ サービス API を使用してカスタム ドライバを作成する手順は、次のとおりです。

- ▶ `scoring.package` から `data-server.jar` を抽出して、クラスパス内にあることを確認します。
- ▶ データ サービスを実装する Java ソース コードを記述し、ドライバ クラスをコンパイルします。
- ▶ ドライバ パッケージを作成します (JAR ファイルとして)。
- ▶ パッケージを IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services インストールの <リポジトリのインストール ディレクトリ >/components/data-provider に展開します。クラスタ インストールの場合、インストールおよび構成マニュアルのクラスタに関するセクションを参照してください。
- ▶ アプリケーションに応じて、IBM SPSS Collaboration and Deployment Services を再起動します。

ドライバをテストするには、Deployment Manager に対応するデータ ソースを作成し、そのデータ ソースを Enterprise View に追加、データをプレビューします。

カスタム ドライバの例

IBM® SPSS® Collaboration and Deployment Services のインストールには、カスタム ドライバの例が含まれています。例の Java ソース ファイルは <repository installation directory>/help/custom_driver にあります。実行スクリプトは次のとおりです。

- `WSDataServiceConnector.java`
(`com.spss.data.service.datasource.DataService` を実装)

- WSDataServiceRequest.java
(com.spss.data.service.datasources.DataSourceRequest を実装)
- WSDataServiceSession.java
(com.spss.data.service.datasources.DataSourceSession を実装)

例のファイルには sample.jar 実行ファイルも含まれています。

ドライバは、データ サービス データ ソースで指定したキーの値に基づいて、テキスト ファイル DATA_1 からデータを取得します。ファイル形式は次のとおりです。

data_key=1

data_element_0=これは 1 番目の要素のデータです

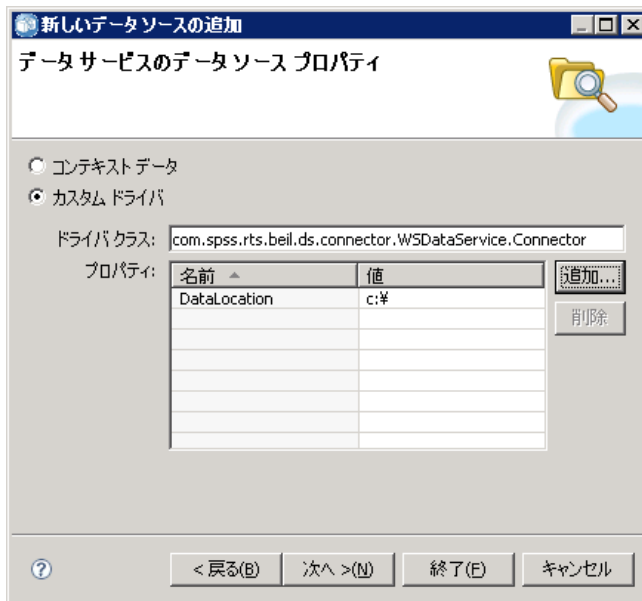
data_element_1=これは 2 番目の要素のデータです

ドライバの機能を表示する手順は、次のとおりです。

1. sample.jar を展開します。
2. 次のパラメータを使用して、データ サービス データ ソースを作成します。
 - **com.spss.rts.beil.ds.connector.WSDataServiceConnector** (ドライバ クラス名として)
 - DATA_1 データ ファイルがあるディレクトリを示す、**DataLocation** ドライバ プロパティ。

図 8-1

サンプルドライバを使用するデータ サービス データ ソースのプロパティ。



3. 次の列を使用してデータ ソースのテーブルを定義します。
 - **data_element_0** (文字列)
 - **data_element_1** (文字列)
 - **data_key** (文字列。プライマリ キーとして指定する必要があります)

図 8-2

データ サービス データ ソース テーブルのプロパティ

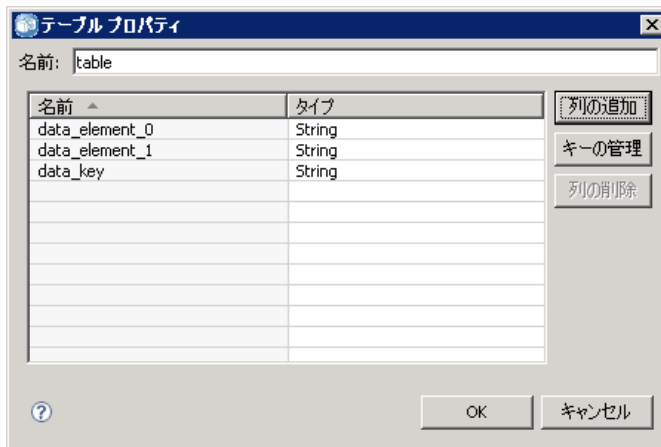
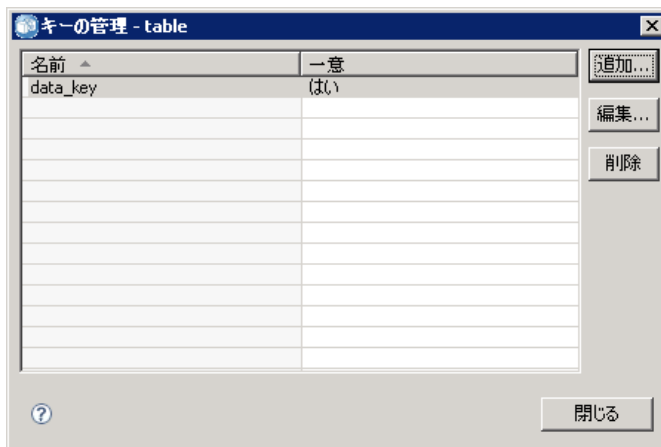


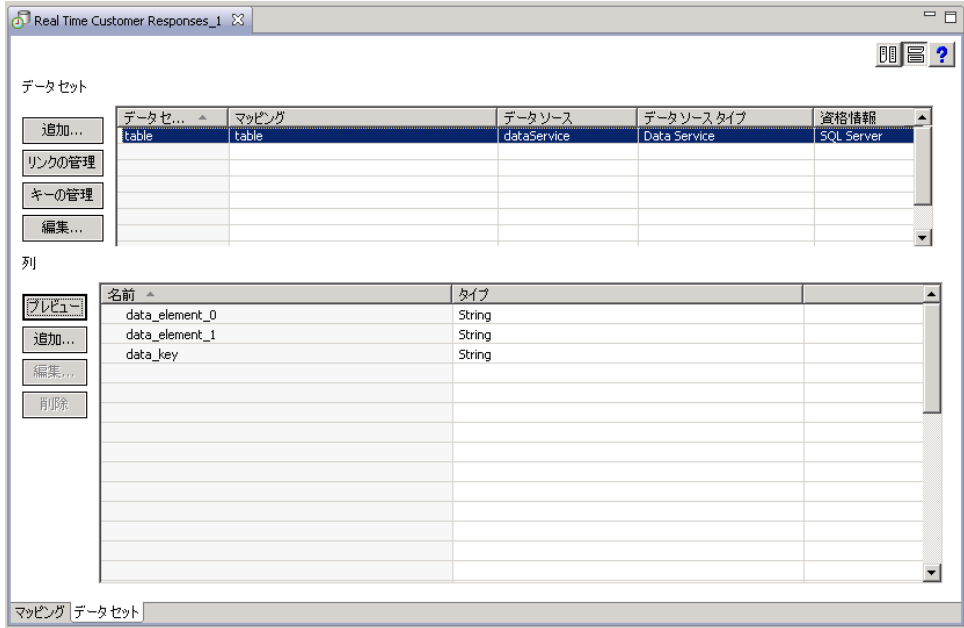
図 8-3

データ サービス データ ソース テーブルのキー



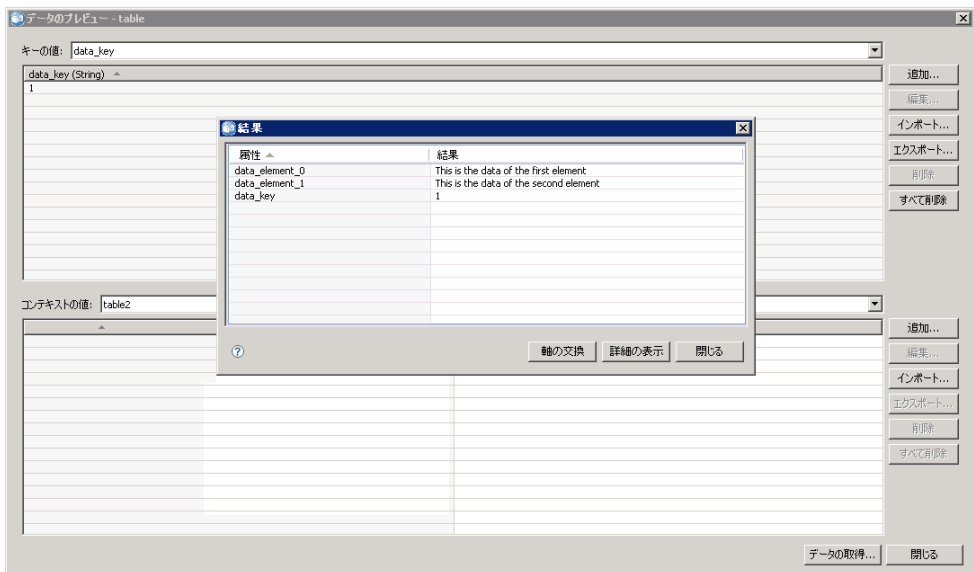
4. 示されているとおりに DATA_1 データ ファイルを作成し、ドライバの DataLocation プロパティで指定された場所にあることを確認してください。
5. データ プロバイダ定義 - リアルタイムの作成を作成。
6. データ プロバイダ定義 - リアルタイム エディタの [データ セット] タブを使用して、データ サービス データ ソースで定義されたテーブルをデータ プロバイダ定義に追加します。

図 8-4
データ プロバイダ定義 - リアルタイムで使用されるカスタムドライバ データベース テーブル



7. キー値として 1 を指定し、テーブルのデータをプレビューします。キー値に対応するデータ ファイルの内容が画面に表示されます。

図 8-5
カスタム ドライバ データ ソースのデータのプレビュー



注意事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。使用許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31 IBM World Trade Asia Corporation Licensing

2 バイト文字セット (DBCS) 情報についてのライセンスに関するお問い合わせは、お住まいの国の IBM Intellectual Property Department に連絡するか、書面にて下記宛先にお送りください

神奈川県大和市下鶴間1623番14号 日本アイ・ビー・エム株式会社 法務・知的財産 知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な記述や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製

品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとして扱います。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）の間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Software Group, Attention: Licensing, 233 S. Wacker Dr., Chicago, IL 60606, USA.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者にお問い合わせください。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

Trademarks

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、SPSS は、世界中の管轄地域で登録された、IBM Corporation の商標です。IBM 商標の現在の一覧については、Web サイト <http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> を参照してください。

Adobe、Adobe ロゴ、PostScript、PostScript ロゴは米国またはその他の国の Adobe Systems Incorporated の登録商標または商標です。

Intel、Intel ロゴ、Intel Inside、Intel Inside ロゴ、Intel Centrino、Intel Centrino ロゴ、Celeron、Intel Xeon、Intel SpeedStep、Itanium、および Pentium は、米国およびその他の国の Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Linux は米国およびその他の国の Linus Torvalds の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows ロゴは米国およびその他の国の Microsoft Corporation の商標です。

UNIX は米国およびその他の国の The Open Group の登録商標です。

Java および Java ベースのすべての商標およびロゴは、米国、その他の国、または両方の Sun Microsystems, Inc. の商標です。

その他の製品名およびサービス名は IBM またはその他の企業の商標です。



索引

- 資格情報, 1
- 報告書, 35
- 作成
 - HTMLC ファイル, 82

- actionHandler タグ, 64, 89
- actionParameter タグ, 65, 89
- activate 属性
 - report タグ, 85
 - repositoryItem タグ, 50
- allowDownload パラメータ
 - URL クエリー, 27
- allowPivoting パラメータ
 - URL クエリー, 27
- allowPrinterFriendly パラメータ
 - URL クエリー, 27
- authentication, 5
- batch_type パラメータ
 - URL クエリー, 20
- BIRT レポート
 - JSP サンプル, 72
- columnName 属性
 - sourceLinkVariable タグ, 63
- contentType 属性
 - page ディレクティブの, 38
- Credential Bean, 66
- credential タグ, 45, 87
- credentialDefinitionName 属性
 - credential タグ, 47
- dataset パラメータ
 - URL クエリー, 18
- dataset_label パラメータ
 - URL クエリー, 18
- dataset.prompt パラメータ
 - URL クエリー, 22
- dataset_rowlimit パラメータ
 - URL クエリー, 19
- dataset.search.criteria パラメータ
 - URL クエリー, 22
- dataset.table パラメータ
 - URL クエリー, 22
- dataset_table パラメータ
 - URL クエリー, 19
- dataset.uri パラメータ
 - URL クエリー, 21
- dbcredential_datasourcename パラメータ
 - URL クエリー, 15
- dbpwd_datasourcename パラメータ
 - URL クエリー, 15
- dbuser_datasourcename パラメータ
 - URL クエリー, 15

- Deployment Portal
 - カスタマイズ, 3
- emf ファイル, 13
- event 属性
 - actionHandler タグ, 64
- Excel ファイル, 12
- format パラメータ
 - URL クエリー, 13
- fragment パラメータ
 - URL クエリー, 14
- function 関数
 - actionHandler タグ, 64
- getBookmarkedValues 関数, 43
- getValueJSFunction 属性
 - sourceLinkPrompt タグ, 59
- height 属性
 - repositoryItem タグ, 53
- height パラメータ
 - URL クエリー, 16
- HTMLC ファイル, 81
 - 作成, 82
 - 構造, 81
- IBM SPSS Statistics カスタム ダイアログ, 1
- IBM SPSS Statistics サーバー, 1
- IBM SPSS Statistics データ ファイル
 - ドライバ サービス, 1
- id パラメータ
 - URL クエリー, 7
- inputURI 属性
 - repositoryItem タグ, 50
- Java インターフェイス, 93, 95
- javascript.name パラメータ
 - URL クエリー, 25
- javascript.url パラメータ
 - URL クエリー, 25
- jpeg ファイル, 13
- JSP サンプル
 - アクセス, 71
- JSR 168, 73
- language 属性
 - page ディレクティブの, 38
- legal notices, 99
- linkType 属性
 - sourceLinkRepositoryItem タグ, 62
- localhost 資格情報, 87
- location 属性
 - outputLocation タグ, 57
 - report タグ, 86
 - repositoryItem タグ, 51
- Lotus ファイル, 12
- MMDDataSource, 87

- name 属性
 - actionParameter タグ, 65
 - credential タグ, 46
 - repositoryItem タグ, 49, 85
- output
 - カスタム ダイアログ, 37
 - ジョブ, 36
 - スコアリング モデル, 37
 - レポート, 35
- output.filename パラメータ
 - URL クエリー, 26
- output.format パラメータ
 - URL クエリー, 26
- outputId 属性
 - outputLocation タグ, 56
- outputLocation タグ, 56
- outputType 属性
 - report タグ, 86
 - repositoryItem タグ, 52
- outputtype パラメータ
 - URL クエリー, 11
- page ディレクティブ, 38
- parameterName 属性
 - repositoryItemPrompt タグ, 55
- parameterValue 属性
 - sourceLinkPrompt タグ, 59, 86
- partId 属性
 - actionHandler タグ, 64
 - outputLocation タグ, 57
- partId パラメータ
 - URL クエリー, 11
- password 属性
 - credential タグ, 48
- password パラメータ
 - URL クエリー, 9
- PDF ファイル, 13
- PevMetaDataBean Bean, 69
- png ファイル, 13
- PostScript ファイル, 12
- PowerPoint ファイル, 12
- prefix 属性
 - taglib ディレクティブの, 38
- promptId 属性
 - repositoryItemPrompt タグ, 55
 - sourceLinkPrompt タグ, 59, 86
- promptstate パラメータ
 - URL クエリー, 10
- provider 属性
 - credential タグ, 48
- provider パラメータ
 - URL クエリー, 9
- report タグ, 55
- ReportBean Bean, 67
- reportDefinitionURI 属性
 - report タグ, 85
- reportPrompt タグ, 55
- repositoryCredentialName 属性
 - repositoryItem タグ, 51, 87
- repositoryItem タグ, 48, 85
- repositoryItemName 属性
 - repositoryItemPrompt タグ, 55
- repositoryItemPrompt タグ, 54
- retrievePromptValues 関数, 44
- runRepositoryItem, 88
- runRepositoryItem 関数, 43
- Safari ブラウザ, 80
- scoring_configuration パラメータ
 - URL クエリー, 20
- ScoringBean Bean, 70
- SearchBean Bean, 68
- session 属性
 - page ディレクティブの, 38
- showLogs パラメータ
 - URL クエリー, 28
- showNavigationBar 属性
 - repositoryItem タグ, 53
- showOutline パラメータ
 - URL クエリー, 26
- showTitle 属性
 - repositoryItem タグ, 52
- showToolBar 属性
 - repositoryItem タグ, 53
- sourceLinkPrompt タグ, 58, 86
- sourceLinkReport タグ, 62
- sourceLinkRepositoryItem タグ, 61
- sourceLinkVariable タグ, 63
- sourceName 属性
 - sourceLinkRepositoryItem タグ, 62
- statistics.server パラメータ
 - URL クエリー, 28
- statistics.server.credential パラメータ
 - URL クエリー, 29
- stylesheet.name パラメータ
 - URL クエリー, 24
- stylesheet.url パラメータ
 - URL クエリー, 24
- taglib ディレクティブ, 38
- targetNameParameter 属性
 - sourceLinkPrompt タグ, 58
 - sourceLinkVariable タグ, 63
- title 属性
 - repositoryItem タグ, 52
- trademarks, 101
- uri 属性
 - taglib ディレクティブの, 38
- URL パラメータ
 - 例, 90

索引

- username 属性
 - credential タグ, 48
 - username パラメータ
 - URL クエリー, 8
 - useSSO 属性
 - credential タグ, 47
 - validate.method パラメータ
 - URL クエリー, 25
 - validateJSFunction 属性
 - sourceLinkPrompt タグ, 59
 - var_variable パラメータ
 - URL クエリー, 17
 - variable.display パラメータ
 - URL クエリー, 23
 - variable.sort パラメータ
 - URL クエリー, 23
 - version パラメータ
 - URL クエリー, 8
 - waitstate パラメータ
 - URL クエリー, 10
 - war ファイル, 38
 - Web パーツ, 73
 - WebSphere, 41
 - width 属性
 - repositoryItem タグ, 53
 - width パラメータ
 - URL クエリー, 16
 - Word ファイル, 12
- アクション, 1
- カスタマイズ
 - Deployment Portal, 3
 - カスタム ダイアログ, 1, 37
 - カスタム ドライバ, 93, 95
 - 例, 95
- クッキー, 80
- クラス ローダ
 - 順序, 41
 - カスタム アプリケーション, 41
 - ポリシー, 41
- ジョブ, 36
- シングル サインオン, 79
- スコアリング モデル, 36
- データ サービス, 93
- データ サービス API, 93, 95
- データ サービス データ ソース, 95
- データ ソース, 93, 95
- 変数のパラメータ
 - URL クエリー, 17
- パッケージ済みポートレット, 73
- ビジュアライゼーション レポート
 - JSP サンプル, 72
 - インタラクティブ操作, 89
- プロンプト
 - カスタム ダイアログ, 37
 - ジョブ, 36
 - スコアリング モデル, 37
 - レポート, 35
- ポータル, 73
 - シングル サインオン, 79
- ポートレット, 73
- リアルタイム DPD, 95
- リポジトリ項目, 35
 - 報告書, 35
 - カスタム ダイアログ, 37
 - ジョブ, 36
 - スコアリング モデル, 36